

△AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA△

第25回 報告書

テーマ：#リアルとつながる





会場ご案内

会場	催事
3階301	AIDS文化フォーラムin横浜
3階302	AIDS文化フォーラムin横浜
3階303	AIDS文化フォーラムin横浜
3階304	AIDS文化フォーラムin横浜
3階305	AIDS文化フォーラムin横浜
3階306	AIDS文化フォーラムin横浜
3階307	AIDS文化フォーラムin横浜



1. プログラム一覧	・・・P 4
2. 開会式 組織委員長あいさつ	・・・P 6
3. オープニング #リアルとつながる	・・・P 6
4. 発表プログラム	・・・P 8
5. すきまミニ講座	・・・P27
6. 展示プログラム	・・・P28
7. 交流プログラム	・・・P34
8. Rock The Middle	・・・P35
9. イベントボランティア	・・・P36
10. 新聞記事	・・・P36
11. 全体会・閉会式	・・・P37
12. フォーラム全体集計表	・・・P38
13. AIDS文化フォーラム in 横浜 25回の歩み ―開催概要と経緯―	・・・P40
14. 協賛・寄付	・・・P42
15. 協賛企業展示	・・・P42
16. 2018 AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち	・・・P43
17. 「AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会規約	・・・P44
18. 参加団体等名称・索引	・・・P45



● AIDS文化フォーラム in 横浜とは？

1994年、横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO、NPO、学生、HIV/AIDSと共に生きる人々、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。たくさんの方々の温かい想い・ご支援により、「手弁当」の市民フォーラムも今年で25年目を迎えました。

● 「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシャリティ、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育・・・私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

● 報告書作成にあたって

フォーラム3日間の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会いをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載していますので、活用して頂ければ幸いです。



* 入場無料

テーマ: #リアルとつながる

PWA/H・セクシュアリティ・LGBT・性 文化 国際 保健・医療・福祉 教育 若者・ネット 薬物 薬害・人権・ノーマライゼーション



プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。

事務局は1階		HIV/AIDSの基礎知識や「こんなこと聞いてもいいのかな?」にお応えします。 すきまミニ講座 by 山田雅子 (AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員) 306会議室 12:30~12:50		
会場	10:00~12:00	13:00~15:00	15:30~17:30	
8月3日・金	2階ホール  オープニング リアルじゃない? エイズ ～えっ、まだエイズってあるんですか?～	すきまミニ講座① 30分 でわかる! HIV/AIDS	ドラッグから見てくる若者のリアル 松本茂彦 (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所薬物依存研究部長) 薬物依存、自傷など、若者たちを苦しむ現代社会の病理と向き合う精神科医。	つながりから考える薬物依存症 松本茂彦・安藤晴敏・若宮神也 「ダメ、ゼッタイ」だけでは防ぎきれない薬物依存症、精神科医、教師、公衆衛生医がたどり着いた結論が「つながり」「居場所」「絆(きずな+ほだし)」。今を生きる一人ひとりが求めていることを考えます。(3人共著の新刊発表)
	301 1994年の国際エイズ会議、第1回AIDS文化フォーラム in 横浜から25年、教科書にもHIV/AIDSが記載されるようになってから、中高生が「エイズ?」って聞いたことがない時代に、 歳元過ぎれば熱さを忘れる。リアルではなくなった。リアルじゃない? エイズ。 でも事態は決して好転してはいない。 いま、何が問題なのか。当事者とYouTuberが本音で語り合う。		性犯罪のリアルに迫る 斉藤章佳 (大森榎本クリニック) 若宮神也 (オフィスいむむろ) 「痴漢、レイプはダメ、絶対」とわかっているのにどうして?! 「男が強姦になる理由」の著者に性教育の第一人者が突っ込む。	AV現場での性感染症予防の取り組み 現役AV男優有志の会 性描写を主とする撮影現場において、出演者がどのように性感染症予防に取り組んでいるのかを説明します。 【R18】
	304 川田龍平 (蒙古エイズ裁判原告・参議院議員) 高久陽介 (JANP+) 北山翔子 (神様がくれたHIV) かずえちゃん (YouTuber) 若宮神也 (AIDS文化フォーラム in 横浜)		ネット時代のリアルコミュニケーションを語る かずえちゃん、北山翔子、宮崎豊久 ネットでコミュニケーションが便利になった今、リアルコミュニケーションについて考える。	心に響く話をしよう 思春期保健指導者研究会 思春期世代の若者の心に響く話をしたいと思いませんか?心に響くプレゼンのコツをお教えします。
	305		日本の癖はないものだらけ!...ってどういこと? #なんでも 主催者急病のため 発表中止 日本の性の健康を守る薬師はないものだらけ!を要えたイスウェーの女子大生が講師です!	
	306			親子で考える教育プログラム・腹話術 JOINT HEART 思いのまま感じた事を伝えるために腹話術を用いて分りやすく行います (15:30~16:30)



ネットワーキング・TEA パーティ
8月3日(金)17:45~18:45 1階展示場
ボランティア、参加団体、一般参加者の交流のための気軽なパーティです。無料・予約不要

会場	10:00~12:00	13:00~15:00	15:30~17:30	
8月4日・土	2階ホール 映画「私はワタシ over the rainbow」 痛み、苦悩、ファンタジー、希望...企画・キャスティング・プロデューサーの東ちづるがインタビューを行い、50名のLGBTs・セクシュアル・マイノリティの言葉を奇かたに記録映画。	すきまミニ講座② 予防に活かせるテクニック ①	三ツ矢雄二と語るセクシュアリティ&コンドーム 二次元演劇のプロ、ゲイのドクター、コンドームの達人が語るHIV/AIDSと性のリアル! 三ツ矢雄二 (声優) 井戸田一朗 (しらかみ診療所) 若宮神也 (厚木市立病院)	宗教とエイズ Part 13 三橋健(国学院大学大学院客員教授) スゲーカル スカボグ神父(カトリック雪ノ下教会) 古川剛哉(浄土真宗本願寺派浄誓寺) 若宮神也(ヘルスプロモーション推進センター) 今の時代は宗教が持つ意味を神道、キリスト教、仏教の立場から考えます。
	301 HIV感染も、薬物依存も、性犯罪も根っこは同じ!? 若宮神也(ヘルスプロモーション推進センター) HIV/AIDS診療医、薬物依存症プライマリケア医、そして犯罪予防は健康づくりからと主張している公衆衛生医が語る「根っこ対策」とは?!	性暴力とSNS-ネット社会を生きる子どもを守る アジアの女性と子どもネットワーク(AWC) 女子中高生を支援するColabo 代表仁藤夢乃氏、インターネット専門家宮崎豊久氏と考えてみましょう。 (予約優先:AWCメールにて受付)	神様がくれたHIV 北山翔子 「神様がくれたHIV」(紀伊国屋書店)の著者が、感染の告知を受けてからこれまでの経験を語る。	
	302 僕がゲイの牧師で良かったこと 平良愛香 ゲイだから気づいた社会のひずみ、人の豊かさ、そして身近なエイズ。キリスト教の牧師の立場から語ります。	4人に1人がHIV? ケニアの小さな村から 鈴木佳奈 私の友人たちの多くはHIVに感染している。一緒にこの地域の文化とHIV/AIDSを考えてみませんか? (14:00~15:00)	にじ色ライフプランニング入門 特定非営利活動法人パープル・ハンズ ひとり暮らしや同性ふたり暮らし、HIVやメンタル疾患、性別変更、私たちバージョンのライフプラン講座。	
	303 元青年海外協力隊員が語るアフリカのエイズ 横浜AIDS市民活動センター アフリカのエイズ予防啓発、異文化の面白さや辛さ、ボランティアに対する考え方を語ってくれます。 (11:00~12:00)	大学生のための性教育 HAATAS(HIV/AIDS Action Team At SHARE) 大学生だから知っておきたいことって何だろう?大学生に伝えたいことって何だろう?みんなで考えよう!	1人じゃないよ ~SANEからのメッセージ~ SANE team かずむがわ もしあなたが、あなたの大切な人が、性被害にあったら、どうしたらいいかわ私達と一緒に考えてみませんか。 (16:30~17:30)	
	304 進歩する治療完治しない現状深めたい社会の理解 渡辺正二、他(国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター) 神奈川県健康危機管理課 内服薬で健全な生活が可能となったHIVという病気、周囲が理解を深め、負のイメージを払拭しましょう。	なぜ、相手の深い話が聞けないのか? 一般社団法人 日本心理療法協会 心理カウンセラー 椎名雄一 相手の話や気持ちを理解したいのに、自分の気持ちでいっぱいになる、違うことを考えてしまうのはなぜ?	教室で使える! HIV/AIDSを伝えるワークショップアイデア 横浜YMCA ACT 「世界がもし100人の村だったら」を題材としたワークなど、授業や講座で楽しく・易しく学ぶアイデアを紹介	





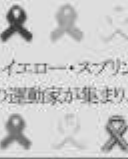




会場	10:00～12:00	13:00～15:00	15:30～17:30
8月4日・土	305 これからの健康教育と外部講師の活用 安藤晴敏(健康教育アドバイザー) アクティブな健康教育の取組みとともに、外部講師を有効に活用した効果ある学校の健康教育を考える。	色々な子どもたちへの性教育 ～元児相保健師の実践から 富岡順子(神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課) 神奈川県健康危機管理課 発達や家庭に様々な課題を抱えた子どもたちの性教育。工夫と笑いがいっぱい多くの実践から話します!	中高生の心に響く性教育を～性暴力も伝えるには～ 遠見才希子 妊娠や性感覚定だけでなく性的同意や性暴力も伝えるには?産婦人科医、新米ママの目線でも身に迫ります。 
	306 	タイの子どもたちとエイズ・人身取引のリアル 横浜 YMCA バンコクYMCAと取り組んでいる児童保護プロジェクト。子どもたちのその後など。活動のこれまでと今・未来。	HIV 感染と妊娠・出産 平成30年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 日本におけるHIV 母子感染の状況およびHIV 母子感染のメカニズムと予防についてお話しします

ネットワーキングパーティ (誰でも参加できる、参加者が、参加団体同士がつながる、ひろがる、わかちあう場)

8月4日(土)18:00～ 中華料理屋 迎珍 内容:横浜ならではの中華料理を食べながら交流

有料・要予約 成人 4,200円 未成年 3,200円 定員:55名(参加希望者は事務局へ)



会場	10:00～12:00	13:00～15:00	15:15～16:00
8月5日・日	2階ホール パワハラ、モラハラ、セクハラ、ラハラ? ～恋人間のハラスメントって～ 上村茂仁(ウィメンズクリニック・かみむら) 岡山県で産婦人科医をしながらSNSを通じた相談を受け付ける。デートDVの予防に必要なことは、 	特別企画 夜回り先生 水谷 修 夜の世界だけではなく、若者に広がる生きづらさ。ドラッグの本当のことを学びましょう。 	2階ホール 全体会・閉会式 次のつながりへ、AIDS文化フォーラム
	301 メディアの向こうのリアルとつながれ! ～#想像力を培い直そう～ 下村健一(白鷺大学客員教授元TBS報道キャスター) 宮崎豊久(ネットスター株式会社) 岩室紳也(ヘルスプロモーション推進センター) メディアリアルを繋げる想像力について語ります。	一瞬で気持ちを切り替える方法 精華学園高等学校西田校 校長・心理カウンセラー 椎名雄一 落ち込んだり傷ついた時、心にこびりついている気持ち。誰でも簡単にでき、一瞬で切り替える方法を紹介します。 	AIDS文化フォーラムを支えてくれた人たち AIDS文化フォーラム in 横浜 AIDS文化フォーラム in 京都 AIDS文化フォーラム in 陸前高田 AIDS文化フォーラム in 佐賀 AIDS文化フォーラム in NAGOYA
	302 性教育をやってみよう! 看護師からの性教育実践方法 星野貴泰 性教育をやりたい、講師を探している、そんな人に伝えたい性教育講師からのお話です。お気軽にどうぞ。	お坊さんが行う性教育授業 ver.8 古川 謙誠 『性と性と死を考える』中学生向けに実施している授業のご紹介と模擬授業を実施。 	
	303 薬物依存症になってからの回復 ナルコティクスアノニマス 私たちは薬物依存当事者団体です。薬物依存症になってしまった私たちがどのように回復しながら生きているかお伝えします。	薬害エイズの教訓は生かされているのか 薬害エイズを考える山の手の会 現在課題となっている HIV ワクチン副反応を取り上げ当事者と共に薬害エイズ問題を振り返る。	
	304 notAlone(ひとりじゃないよ)気づいて、デートDV 認定NPO法人エンパワメントかわわ オリジナルソングから、若い世代から同世代に、デートDVについて啓発する輪を広げます。	Ribbonを繋ごう in YOKOHAMA AIDS文化フォーラム in NAGOYA 様々な色のリボン(レッド・オレンジ・イエロー・スプリンググリーン・レインボー・パープル)の運動家が集まり、トークセッションを行います。 	   
	306 HIV感染者の分娩と未受診妊婦の問題 AIDS ネットワーク横浜 ヘリクス出産の名医として知られ、分娩の社会的問題の啓発にも活躍中の東大医大の水木川純先生の講演。	感染者・患者の生活とソーシャルワーカーの役割 AIDS ネットワーク横浜 感染者の生活を守る制度とその実際について、横浜市大病院で経験豊富なS.W. 友田安政さんが語る。	

【展示協賛団体】

- ◇アジアの女性と子どもネットワーク ◇カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク ◇神奈川県健康局保健医療部健康危機管理課 ◇神奈川県ユニセフ協会
- ◇ジェクス株式会社 ◇ナルコティクスアノニマス ◇横浜 AIDS 市民活動センター ◇横浜 YMCA ◇ATAC&ABCD&SKGH in NARA ◇N hermitclub
- ◇NPO 法人 HIV と人権・情報センター ◇NPO 法人かわわ外国人すまいサポートセンター

横浜雙葉学園 茶道部 8月4日(土)～5日(日)



【助成金】公益財団法人エイズ予防財団(平成30年度エイズ予防推進助成事業)へ広がるネットワークを評価していただきました。

【寄付】ヴァーブルヘルスクエア株式会社、神奈川県化粧品工業協会、神奈川県製薬協会、ジェクス株式会社、鳥居薬品株式会社、ヤンセンファーマ株式会社、ウィズメンズクラブ国際協会東日本区

【物品協賛企業】株式会社伊藤副、株式会社ジャパンビバレッジセントラル、東京キリンビバレッジサービス株式会社

開会式・組織委員長あいさつ

開会式で会場がこんなにいっぱいになるのは25年間でも稀にみる回数だと思います。この会が25年間続いただけでなく、いつも若い人たちに受け入れられてきていることを大変嬉しく思います。25年前、横浜で第10回国際エイズ会議がありました。当時、エイズの会議を横浜で開催することに反対する声がある中、差別や偏見を超えて国際エイズ会議を開こうとした、そういう時でした。国際エイズ会議には参加費がかかりましたが、多くの人にエイズの問題を自分事にしてもらおうと市民が立ち上がって市民レベルで始まったのがこのAIDS文化フォーラムです。国際エイズ会議に参加した医師や当事者たちが市民のためにこのフォーラムで講演をしてくださいました。組織委員会はフォーラムを応援する役割を持ち、運営委員会がこのフォーラムを運営しています。

当時、差別や偏見のただ中であつたのはエイズだけでなく、多様な性を語ること自体が難しく社会の中で語る場はほとんどありませんでした。今年いみじくも国会議員がLGBTを生産性がないと発言し話題になりましたが、人間のいのちの価値を生産性で語っていくとそれは戦争やナチズムにつながっていきます。性といのちに関しても、多様な性や、障がいがあってもなくても私たちは共に生きていられる社会を作っていく、市民によって市民社会を創造していくという意味で、文化フォーラムという名前を付けて回を重ねています。60近い講座があつてもほとんど予算はありません。なぜなら当初から市民社会を創造するという思いのある人たちが手弁当でこの講座を実施しているからです。自分たちが手を挙げてこの講座を伝えようと応募して講座を担当しています。あるいは基金や寄付などの支援によって講座が成り立っています。それを神奈川県が応援してくださってこのような素晴らしい会場が用意されています。

皆さんにも単なる受講者ではなく、このAIDS文化フォーラムの参加者でありながら、共に文化を作り上げる主催者の一人として関わってもらえたらと思います。私も毎回いろいろな講座を受け、そのたびに新しい衝撃と出会いがあり、自分を変えられる思いがあります。他人事を自分事に変えるというテーマを掲げた時がありましたが、他人事だったエイズやそれを取り巻く問題が、実は自分にもつながりのあることだと気づくそういう3日間になると思います。是非、他人事を自分事に変えるときとして活用してもらえたらと思います。

この後のオープニングでは、25年前は高校生だった川田龍平さんにも来ていただいています。多くの方がAIDS文化フォーラムで育ち、また、いろいろな文化を創ってくださっていることにも感謝です。今AIDS文化フォーラムは、佐賀、京都、名古屋、陸前高田にフォーラムが広がっています。そういう場で、自分たちの多様性を語る場面が少しずつ広がっていることも嬉しく思っています。全国に広まったAIDS文化フォーラムも、組織的に始まったというわけではなく、思った人が声を上げ、そしてつながりの中で作り上げられています。そういう会ですので、皆さんも何かできるという思いを持ち帰って活かしていただければと思います。この3日間どうぞよろしくお願いいたします。

組織委員長 田口 努



オープニング

リアルじゃない？ エイズ ～えっ、まだエイズってあるんですか？～

出演：川田龍平（薬害エイズ裁判原告・参議院議員）

高久陽介（JaNP+）

北山翔子（神様がくれたHIV）

かずえちゃん（YouTuber）

司会：岩室紳也（AIDS文化フォーラムin横浜）

1981年にアメリカで後にAIDSと命名された病気が発見されてから37年。1994年に横浜で第10回国際エイズ会議が開催され、AIDS文化フォーラム in 横浜がはじまってから25年目。小中高の教科書にもHIV/AIDSのことが記載されるようになりました。治療薬も進歩し、一日一回一錠を服薬し続けるだけでAIDSの発症を食い止め、天寿を全うできるようになってきました。そのため、マスコミの報道も減り、一方でというか、だからこそと言うべきなのか、HIV/AIDSに対する関心が低下し続けています。HIV/AIDSをきっかけに理解の輪が広がったLGBTQですが、一方で差別的な言動が後を絶ちません。今回、HIV/AIDSやセクシュアリティをリアルにとらえてもらうため、積極的に活動を展開されている4名の方に登壇いただき、いま、HIV/AIDSやLGBTQをリアルに感じてもらうために求められていることを考えました。



内容:

川田龍平:10歳(1986年)にHIV感染の告知を受け、20歳まで生きられないと思っていた。アメリカで13歳のジョナサン君が感染を公表していたのを見て、1994年の国際エイズ会議で公表した。周りの人も一緒にメディアに出てくれたことで生活している姿を見てもらえたことが大きかったと思う。若い人たちの活動もあって理解の輪が広がった。最近「LGBTは生産性がない」と発言する議員もいたが、日本には古くから優生思想の土壌が根深く存在し、諸外国と比べて遅れている印象があり、そこを少しでも変えたいと考え活動している。

高久陽介:自分自身は男の子が好きなおかしいことと思っていなかったけど、大人になるにつれいろんな情報が入ってきて、自分はおかしいのかなと思いはじめた。LGBTQのパレードに向かって手を振ってくれた人がたくさんいたことで、受け入れてくれる人がいると感じ、ゲイであることを公表し、HIVも受け入れてくれるかとも思い活動し始めた。

北山翔子:最初は感染していることを親しい友人には話せたが身内には言えなかった。妹に話したらとても悲しんでくれた。自分が選んだ相手から感染したので仕方がないことだと思っている。その体験談を「神様がくれたHIV」(紀伊國屋書店)にまとめている。自分の経験からも、「正しい知識だけではダメ!」で、ここに響くメッセージが大切。

かずえちゃん:小学校の時に男の子に目が行く自分がいたが、他の人と違うと思っていた。一方でテレビを見ていてゲイだということを言っはいけないことだと思った。日本で、それも地元ではカミングアウトできなかったけど、カナダに留学した時に街の中で男同士が仲良くしているのを見て自分もカミングアウトする気になった。自分が辛い思いをしたから他の人が同じ思いをしないようにYouTubeを始めた。

来場者感想:

- 差別や偏見のない世の中。みんな違っていることを受け入れられる世の中になればと感じました。(神奈川県 40代 保健医療福祉関係)
- SNSをきっかけにつながることでリアルに出会うがよくわかりました。(神奈川県 40代 保健医療福祉関係)
- 今の生きづらい社会にこのフォーラムがあることが希望になります。この社会で私もおかれたところで精一杯咲きたいと思いました。(山梨県 40代 教育関係)
- 川田龍平君、お元気そうでうれしいです。ずっと前に母校の文化祭に来ていただきました。(群馬県 50代 保健医療福祉関係)
- ゲイの方の気持ちを聞かせて頂き良かった。特別なことではなく、女性が男性を好きになっても同じことはあるだろうし、理解できます。こういう話を北海道でも聞ける機会が増えて欲しい。(北海道 50代 保健医療福祉関係)
- 4人の方のお話から、つながる、分かり合える大切さを感じました。カミングアウトして、皆で認め合っていける世の中になることを。文化フォーラムの中のような社会に。(神奈川県 70代 その他)
- みなさんの言葉の力、生命力を感じました。自分が生きている意味、人生を満喫したい!と考えることが多くなり、沢山刺激をいただきました。何かしたい!です。開会式は本当にワクワクします!(東京都 40代 教育関係)
- 川田さんのような方が議員として活動されていることがとてもうれしく思いました。学校での性教育、自分なりに学び続けて、つながり続けて取り組んでいきたいと思いました。(神奈川県 30代 教育関係)
- LGBTQの人やHIVに感染した人も生活しやすい、カムアウトしやすい世の中になればよいと思いました。(神奈川県 10代 学生)
- AIDSについてもっと深く調べてみたいと思った。自分は関係ないなんて思っていないが、しっかりした知識を持って、行動していこうと考えさせられました。交流を持つことも大切。(神奈川県 10代 学生)

発表プログラム

ドラッグから見えてくる若者のリアル

主催：松本俊彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長）

内容：「ダメ。ゼッタイ。」「薬やめますか？それとも人間やめますか？」おなじみのフレーズ、そこには薬物依存症＝犯罪とだけ見る社会がある。しかし、なぜ薬物を使ってしまうのか、理解をすることが重要。依存症になる人の多くは、心の痛みを抱えており、薬物摂取によって悩みや痛み、苦しみが軽減したり消えたりする、という体験は何度やっても飽きず、生きるために欠かせないものになってしまう。

アディクション(依存)の反対語はコネクション(つながり)と言われており、そのつながりを喪失した孤立の病＝依存症とも言える。大人に頼ってよいということ、やってしまったことを責めないこと、そんな「つながり」を作ることが依存症から抜け出すこと、未然に防ぐことになるという、松本先生からの力強いメッセージ。



来場者感想：

- 教育についてのお話が主で、今まで何か足りない・何かが違うと思っていたものがすっきりしたような気がします。今後何を頑張っていけばよいか分かり、エネルギーが出てきました。頑張ります。(50代 教育関係)
- 薬を使う人に“ヤキ”を入れるのは良くない。ダメって言うのは簡単だけど、どうやってやめればよいのかを、一緒に考えることが必要なのだと思った。(神奈川県 10代 学生)

連絡先：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

住所：〒187-8533 東京都小平市小川東町4-1-1 TEL:042-341-2711 FAX:042-346-1944

性犯罪のリアルに迫る

主催：斉藤章佳（大森榎本クリニック）岩室紳也（オフィスいわむろ）

内容：「男が痴漢になる理由」というタイトルより本の帯にある「痴漢は、依存症です」という言葉にひかれ、岩室が斉藤さんにトークを依頼しました。痴漢犯は、子どもがつかまわれないように、カーリングのように歩む道を磨き上げた子育ての結果、家でもいい子、学校でも目立たないいい子、職場でも使いやすい人であり続け、気が付けば本人は達成感がない人生を歩んでいた。それを痴漢行為で「女性も喜んでいっている」と、倒錯した達成感を得ることで痴漢依存症になっていた。



来場者感想：

- 思春期保健教室を0次予防です！と思ってやっています。間違い？(岩手県 30代 保健医療福祉関係)
- 「善良な家庭人が加害者」との始まりから、お話の全てが興味深く、わが身を振り返りました。(神奈川県 60代 教育関係)
- 身近な問題ではない話が聞けて勉強になりました。(神奈川県 60代 教育関係)
- (小児性愛などの)異常性欲はきっと私にも、誰にでも存在しているんだろうなって思いました。(神奈川県 20代)
- チカンの話と生きがい、生き方、家庭、子育て、人の基本ですね。(東京都 50代 保健医療福祉関係)
- 加害者が幸せになることで被害者がいなくなると考えると、カーリング子育ても加害になるので、カーリング子育てしないことが1次予防になる。(山梨県 40代 教育関係)



連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL:<http://iwamuro.jp/>

ネット時代のリアルコミュニケーションを語る

主催：北山翔子、宮崎豊久、かずえちゃん

内容：YouTuberのかずえちゃんこと藤原和士、学校などを中心にネットやSNSの使い方などの講演をしている宮崎豊久、神様がくれたHIVの著者の北山翔子の3人が、お互いの出会いや過去の経験から、ネットがコミュニケーションツールとして汎用されるようになった今どきのリアルコミュニケーションについて、それぞれの視点で話をしました。

来場者感想：

- リアルコミュニケーションに繋がるようにSNSと向き合えたら良いと思いました。
- 直接コミュニケーションを取ることの大切さを再確認した。
- 学校現場ではSNSのトラブルが絶えません。SNSはコミュニケーションツールなので、良いとか悪いとか問うのではなくて、そのトラブルを解決するのは教員の仕事の一つで悩みの種です。
- 私も、子どもの頃からの親からの叱られ方が、今のコミュニケーションに影響しているのかなと考えさせられました。
- YouTubeは自分が伝えたい事を編集して100伝えることができるという言葉に感銘を受けました。

連絡先：北山翔子 E-mail:jasmin703aladdin@gmail.com 宮崎豊久 E-mail:t.miyazaki@internetmuseum.org
かずえちゃん公式ホームページ URL:https://kazuechan.com/



つながりから考える薬物依存症

主催：松本俊彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長）
安藤晴敏（健康教育アドバイザー）・岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）

AIDS文化フォーラム in 横浜でつながった筆者たちの本が誕生しました。表紙はもたいひでのりさんの作です。

内容：薬物依存症については「ダメ絶対運動」をはじめとした社会の中での普及啓発活動はもとより、学校現場での教育もしっかり行われています。一方で、HIV/AIDSの診療を行っている、AIDS文化フォーラム in 横浜に25回も関り、松本先生と何度も一緒にいる岩室も自分に関わる問題だと思っていませんでした。しかし、どのような方向性が求められるのかを依存症のプロ、教育のプロ、HIV/AIDS診療のプロがそれぞれの限界を本音で話し合った結果が副題にある「安心して失敗を語る絆・居場所づくり」でした。

来場者感想：

- 3者3様の立場や意見が交わると、生きた化学反応のようになり、面白い話に昇華していった、非常に楽しく有意義なセッションだと感じました。（東京都 20代 会社員）
- 3人ともリアルと出会いながらそれぞれが変わってきたことを知った。（神奈川県 60代 教育関係）
- マイノリティが幸せな世界が最も素晴らしいこと。さて、自分は何ができるか？（神奈川県 70代 ライター）
- 学校教育を変えていく難しさを感じた。（東京都 30代 保健医療福祉関係）
- 各分野での正直な話が参考になった。（神奈川県 20代 教育関係）
- 対象の良き理解者となるのが大切だと心から思いました。（神奈川県 30代 看護学生）

連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL:http://iwamuro.jp/



AV現場での性感染症予防の取り組み

主催：現役AV男優有志の会

今年も多くの方にご来場いただきました。有志の会と名乗りながら、実際には1人だけが話しました。



内容:AV業界の現状と、性行為を仕事でしていく上でどのようにして性感染症に気をつけているのかといったことが中心でした。具体的に言いますと、7項目(HIV、梅毒、B型肝炎、淋菌、喉淋菌、クラミジア、喉クラミジア)の検査が最低月一回義務付けられていることと、コンドームの着用率が99%以上であることです。ただ、そのような最大限の注意を払っても、コンドームでは感染を防ぎきれない梅毒や、口を使った性行為で喉クラミジアや喉淋菌がうつってしまう事があるし、潜伏期間があるので検査自体も100%の証明にはならないといったことを話しました。そして、セックスとの向き合い方の話もし、そこでは、性の持つ矛盾について触れました。

来場者感想：

- Mさんの出演している作品は女性を大切にしている感じがして好きだったのですが、理由がわかった気がします。(神奈川県 30代 保健医療福祉関係)
- 男女平等のSEX、同意のないSEXは性暴力、女性が”No”と言えること、etc、大事なメッセージに満ちていました。AV男優から受けた性教育はとてもリアルでした。(神奈川県 50代 保健医療福祉関係)
- 小中学生への性教育でゴムの付け方など具体的な性についての描写がタブー視されている日本で、小中学生がAVで得た知識を正しいと思いこんでしまうのは大きな問題だと思いました。(神奈川県 10代 学生)
- AVのリアルな面を知ることができました。(神奈川県 10代 学生)
- 今までの感染症の視点ではなく、お互いのセックスがどうあるべきなんだろうと考えさせられる講義でした。(神奈川県 20代)

心に響く話をしよう

主催：思春期保健指導者研究会

思春期の子どもたちに何をどう伝えるかということを考え、心に響くメッセージのために研究、研鑽(けんさん)しているグループです。

内容：・心に響く話をするためのコツについて

思春期保健指導者研修会受講生OBによる3分間スピーチのデモンストレーション

今回、5人の受講生OBに3分間で話をしてもらいました。どのスピーチも研修会よりもブラッシュアップされ、とても伝わりやすい内容でした。具体的に、こんな風に話せば伝わりやすいということが感じられたのではないかと思います。会場には、スピーチはしないけれども参加してくれた受講生OBも多く、コメント等で参加してくれていました。

来場者感想：

- 自分の体験・経験を交えて話すこと、専門用語は使わないというのは、実習でも必要な技術になると思いますので、これからは意識していきたいと思います。
- 発表者それぞれのエピソードとコメントがリアルで、まさに今日のAIDS文化フォーラムのメインテーマに即した内容だったと思います。
- 体験したことを入れ、概論でなく、心に届く話をブラッシュアップして話されている姿に感服です。



連絡先：北山翔子

E-mail:jasmin703aladdin@gmail.com

親子で考える教育プログラムその2 ー子どもをのびのび伸ばすー

主催：JOINT HEART（畠山雅行・中井幸永・人形の「ちえちゃん」）

特別参加者（小学生3人姉妹と弟）

思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション方法を分かりやすく広める活動を行います。

内容：[目的]①健康腹話術普及②親子教育プログラム③エイズ知識啓発

[教育プログラム]:参加者同士で話し合ってみる。参加型研修を実施する。事後アンケート回収。

[ねらい] 子どもを伸ばすにはどうしたら良いかを皆さんと考える。

①フリートーク「健康・安全への関心事のリアル」自己紹介タイム「最近気になる健康とは」「安全については」。

②ワークシート活用「病気の予防について関心を持って理解できるようにしよう」「スワンゾウ」の絵で気付いた事は？「禁煙マーク」がある場所はどこ？たばこの害は近くにいる人々にも影響を及ぼす。「受動喫煙」。喫煙すると体にどんな影響がでるでしょう。若い時期から喫煙を始めると。

[まとめ]HEALTHY HAPPY FORUM みんなで腹話術にチャレンジ！！

来場者感想：

- 腹話術で場面を再現してくれて分りやすかった。
- スワンゾウを初めて知った。楽しかった。
- 「病気の予防」について関心を持った。グループワークがあり自分で考える時間があるのがよかった。
- 参加型が良い。
- 小学生3人姉妹と弟の反応が可愛かった。



連絡先:代表者 畠山雅行 FAX:0743-78-9841 E-mail:m-hatake@m4.kcn.ne.jp

映画「私はワタシ over the rainbow」

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

ストーリー:痛み、苦悩、ファンタジー、希望…。企画・キャスティング・プロデューサーの東ちづるさんをインタビュアーに、40人以上のセクシュアル・マイノリティの人たちの言葉を紡いだ記録映画。ゲイ雑誌「バディ」や「G-men」の創刊や、現在もHIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス理事などで活躍しつづける長谷川博史さんを軸に、ピーターさん、はるな愛さんなどの著名人や活動家たち、生きづらさを感じる人たちのメッセージが心に染みる。また、冒頭にコミカルなタッチでLGBTsをわかりやすいナレーションで解説するのは、声優の三ツ矢雄二さん。彼らの“リアル”な声をあなたにつなぐストーリー。

監督／増田玄樹 プロデューサー／東ちづる(2018年 日本 90分・日本語/日英両字幕)

来場者感想：

- LGBTという言葉を知ってはいたが、当事者たちがどんな思いで生きているかは知らなかった。身近に当事者がいないといまいちリアルに感じられないから、今回この映画を見て良かった。(10代 学生)
- とても考えさせられるものでした。頭ではわかっているけど、自分の子どもにカミングアウトされたら受け入れられるかわかりません。私自身も考えを改めなければと思いました。(神奈川県 50代 保健医療福祉関係)



連絡先:URL:<https://warmblue2018.wixsite.com/overtherainbow>

HIV感染も、薬物依存も、性犯罪も根っこは同じ!?

主催：岩室紳也 (ヘルスプロモーション推進センター)

内容：日本人は何か問題があると、その原因を探り、問題を抱えた人を早期に発見し、個別に指導することで解決しようとしがちです。しかし、その方法で克服できた問題はほとんどありません。これからはそれぞれの問題に共通する「根っこ」が何かを確認、共有することで、結果として一見異なる分野の課題が同時並行的に解決したり、予防したりということが実現できる社会を目指したいものです。

来場者感想：

- 居場所、大切なのはわかりました。どうつながっていくのか。依存している人は既につながり×⇔どう介入するのか？(神奈川県 30代 学生)
- 人間にとって大切なものをたくさん教わりました。「つながる」と一言では表せないつながりさぐりで苦労している人も多そう。(東京都 50代 教育関係)
- 居場所を探している人を自分も受け入れられるようになろうと思いました。(神奈川県 20代 学生)



連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL:<http://iwamuro.jp/> (メール、講演申し込みはHPからお願いします)

僕がゲイの牧師で良かったこと

主催：平良愛香 (たいらあいか) 日本基督教団牧師

同性愛者であることを公言 カトリックエイズデスクメンバー

内容：「いやだった自分の名前を自分で選び直したときに、初めて『押し付けられたもの』から『自分のもの』になった」という自己紹介。それは名前だけでなく、性やその他すべてのことに通ずるのだという導入から、「性を表す3つの単語 (sex, gender, sexuality)」の説明と配布した用語集の解説(これが絶対ではないということ)。それから「僕の5つのカミングアウト」というテーマで平良自身の自分史を語った。

1. SOSとしてのカミングアウト。
2. 「本当の私を知って下さい。もうあなたには嘘はつきたくないんです。」(新たな関係性を作り上げる)。
3. 「同性愛者はあなたの目の前にいます。気づいてください、差別しないでください。」(社会に対してのカミングアウト開始)。

4. 「あなたは一人ぼっちじゃないよ」というエールとして。

5. セクシュアリティの豊かさ、多様性。100人いれば100通りの性。あなたの性はなに色ですか。

初心者向けの「LGBT講座」のような部分にどうしても時間を多く費やしてしまい、さらにそこから「ゲイの牧師で良かったこと」という話が中途半端なまま終了になってしまった。それでも、「生産性が無い者は不要」という価値観や発言が社会にある事実や、その背後にある「全体主義」「国家主義」に気づくことがいかに大切か、といった話にまで持っていくことができた。

最後に平良作詞作曲の「主につくられたわたし(わたしらしく生きよう)」をみんなで歌った。♪私らしく生きよう、自分を確かめて。男らしくでもなく、女らしくでもなく、ただ私を造られた神に応える。ただ私らしく生きることで♪



来場者感想：

- 性に関する話やLGBTに関して『また聞き』ではなく『直接』伺えてとても良かった。
- 多様性についての理解が深まった。
- キリスト教と同性愛者の関わり、性差別への意識が人間そのものへの差別意識に深いところにつながっていることを学んだ。
- わたしらしくそのまま生きることの大切さを教えられた

連絡先：平良愛香 E-mail:aika.crocus@nifty.com

元青年海外協力隊員が語るアフリカのエイズ

主催：横浜AIDS市民活動センター

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設です。2010年より(公財)横浜YMCAが受託運営しています。

内容:「元青年海外協力隊員が語るアフリカのエイズ」

昨年に引き続き好評を博した講座です。モザンビークで青年海外協力隊員として活動されていた斉藤さんをお招きし、1時間という短い時間でしたが、内容の濃い講座になりました。スタートは、協力隊員に参加した経緯(第1回AIDS文化フォーラム実行委員の学生時代から社会人としてのキャリアを残した状態での協力隊員の参加)。最新のモザンビーク事情。エイズ政策担当者として具体的な活動と社会状況。後半は現地での日常生活(タイムテーブル、食事、買い物)や文化交流(ダンスグループ)の様子をビデオや写真で紹介されました。最後に活動の課題・問題点・帰国後のキャリアの形成へと話が進みました。海外でのリスク管理・多様性の尊重・健康はこれから海外で活躍を考えている方に大変役にたつものでした。



来場者感想:

- 日本にいと、固定的な価値観になりがちなんだと分かり、海外で働いてみたい。(神奈川県 30代 学生)
- 海外のHIVや仕事をする事について知る事ができた。もっと仕事をしているメンバーや現地住民の交流も知りたい。(神奈川県 20代 学生)

連絡先: 横浜AIDS市民活動センター 〒231-0015横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F

TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422 E-mail:info@yaaic.gr.jp URL:https://www.yaaic.gr.jp/

進歩する治療、完治しない現状、深めたい社会の理解

主催：神奈川県健康危機管理課

講師：渡辺恒二、上村悠、長島浩二、杉野祐子、木村聡太 (国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター)

内容:エイズに関する基礎知識とその歴史、投薬治療の効果、HIV陽性者との接し方について、医師、薬剤師、看護師、心理士それぞれの立場から解説しました。今やエイズは死に至る病ではなくなり、治療によって非感染者と同様に暮らすことが可能となっています。検査を受け、感染の有無を早期に知ること、陽性者が治療を継続できるよう、周囲が理解を深め、支えていく必要があります。

来場者感想:

- HIV/AIDSについて最新の知識を得ることができました。また、Dr.の面談からの始まり、とても良かったです。イメージしながら聞くことができました。自分にも差別意識(まだ不治の病、かわいそう)等ありましたが、払拭できました。(40代 保健医療福祉関係)
- 最新のHIV治療を知ることができて本当に良かったです。HIV感染症の治療が1日1回1錠となり、高血圧や糖尿病など生活習慣病と同じようになったことを普及させていきたい。(60代 保健医療福祉関係)
- HIV/AIDS医療の最先端に関わるメンバーから貴重な話をうかがえました。とても良かったです!!(60代 保健医療福祉関係)

連絡先: 神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課感染症対策グループ

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL:045-210-4793 FAX:045-633-3770

E-mail:kenzou-kansen@pref.kanagawa.jp



これからの健康教育と外部講師の活用

主催：安藤晴敏（健康教育アドバイザー）

内容：これから10年先、更に少子化、高齢化を迎える現象や、技術革新にともない、世界の壁がなくなり、多様な情報が錯綜し、人工知能(AI)の進化とともにますます生活環境や雇用環境の在り方に変化が見られると予想されます。このような時代に対応する学校教育は今まで見られていた教師主導型の授業展開、つまり、子ども達の受動的な姿勢の学びから、自ら習得した知識を活用し、主体的に向き合う「生きる力」を多角的な視点でとらえる学校教育が求められます。

健康教育も、暗記力を中心とした実践から、知識のみではなく、思考、判断、表現力等、人と関わり合う中で、自らを高め「生きる力」を身につけることが求められます。このように健康教育をはじめ、これからの学校教育は意識改革が今以上に必要となってきます。

また、より専門的な視点から学びを高めるには外部講師を有効に活用することが望まれます。依頼者と講師の綿密な事前の打ち合わせ等が必要であり、それにより特別教室の「めあて」も達成できます。



来場者感想：

- 指導要領がめざすものを丁寧に解説してくださり理解できました。先生が学校へ出向き、講演される際にどのような話されているのか等、具体的なお話をもっとうかがいたかったです。(神奈川県 50代 教育関係)

三ツ矢雄二と語るセクシュアリティ&コンドーム

二次元演出のプロ、ゲイのドクター、コンドームの達人が語るHIV/AIDSと性のリアル！

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

出演：三ツ矢雄二（声優）井戸田一朗（しらかば診療所）岩室紳也（厚木市立病院）

内容：昨年につき、声優・三ツ矢雄二さんを招いてのリアルトーク第二弾。「ゲイのリアル」として、三ツ矢さん・井戸田先生が共通で「初めて読んだゲイ雑誌」の存在に、“自分だけではない”と勇気付けられた話から始まった。

岩室先生からのHIV/AIDSの基本講義では、HIVとAIDSの違いや現在の治療について詳細に教えてもらい、今は1日1回1錠が主流であるとされた。

「ゲイ・MSM」のセックスのリアルについて岩室先生より、体の痛みの軽減のための薬物を「内服」することもある現実について話があり、薬物使用は教育の中で注射だけでなく内服もあることを説明していく必要性が語られた。

また、セクシュアリティについては、ゲイだとかバイセクシュアルだとかいったことではなく「あの人」がよい、あの人でなければダメ、という「人間として好き」という気持ちが存在するリアルも目の当たりになった。

来場者感想：

- 自分がそうだと思ったら、肯定し認めることが最初のカミングアウト、という言葉がとても印象に残りました。自分に素直になることで、周りまで認めさせてしまうような三ツ矢さんがとても素敵でした。(神奈川県 30代 学生)
- 井戸田先生のフリートークを聞いてよかったです。Q&Aの三ツ矢さんの回答が良かった。「その子にとってはそれが普通」(群馬県 50代 仕事関係)
- 体験談が多くあり、更にHIV/エイズの勉強もできて非常に満足感のある講演でした。三ツ矢さんの声優としての仕事も聞いて嬉しかったです。自分で自分を納得する、認める、自分の中に負い目を感じない。すべての人たちに必要なすばらしい言葉だと思います。(神奈川県 30代 仕事関係)
- ゲイの話、三ツ矢さん・井戸田さんの話、合間に最新のHIV/AIDSの情報と、話の展開も、聞き心地良かったです。ありがとうございました。(神奈川県 40代 教育関係)



性暴力とSNSーネット社会を生きる子どもを守る

主催：アジアの女性と子どもネットワーク (AWC)

タイで教育支援、AIDS孤児支援活動などを実施する他、国内では子どもの性的搾取に反対する活動を続けている。

内容:居場所のない寂しさ、辛さからSNSに依存してしまう子どもを搾取するおとながいるという事実をまず知るとともに、子どもたちを自己責任と責めるのではなく、何ができるのか考える機会となった。講師に一般社団法人Colaboの仁藤夢乃氏、インターネットポリシースペシャリストの宮崎豊久氏を迎え、コーディネーターはAWC代表のマリ・クリスティーンが務めた。家庭環境が悪く自己肯定感が持てないままだったり、人に相談をした経験がないから気持ちをうまく表現できなかったり、助けを求めることができないでいる子どもの存在を改めて認識するとともに、子どもを商品として扱うおとなや社会に対してもっと敏感になり、反対する意識を持つことの大切さを学んだ。同時に人と関係を築くこと、コミュニケーションをとることの重要性も再認識した。全国から参加者が集まっているのもAIDS文化フォーラムの特徴だと感じた。今回会場で共有した思いが広まって欲しいと思う。

来場者感想:

- 居場所のない子どもたちを受け入れる場の整備がもっとも必要だと思いました。
- 講師の本気が伝わる内容だった。

連絡先:アジアの女性と子どもネットワーク(AWC)

〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F 横浜AIDS市民活動センター内

TEL&FAX 045-650-5430(13:00~17:00) E-mail:awc@h6.dion.ne.jp URL:http://www.awcnetwork.org/

4人に1人がHIV!? ケニアの小さな村から

主催：鈴木佳奈(元青年海外協力隊)

内容:青年海外協力隊での感染症・エイズ対策として関わった2年間の活動について発表した。HIV感染率20~25%のある小さな村で、私は多くのHIV感染者と生活を共にしてきた。

発表内容

- ケニアとは ●HIV/AIDSの歴史 ●HIV/AIDSの世界の動き ●HIV/AIDSの小さな村での動き
- 私のケニアでの活動内容 ●必要な支援とは

現地のHIV感染者と共に悩み、共に喜び、そんなケニアでの生活/現状を少しでも皆様と共有できていたら嬉しい。

来場者感想:

- 具体的な写真やエピソードと共にご自身の見解も示されていてとても分かりやすかった。ぜひ他の人にも伝えたいと思った。(東京都 20代 教育関係)
- ケニアの現状が分かって興味深かった。それぞれの地域で求められている支援が違うこと等、日本の地域事情と共通する部分があると感じた。(北海道 30代 保健医療福祉関係)
- 発表がとてもよかった。(50代 保健医療関係)
- パワーにいつも元気をもらっている。(神奈川県 50代 会社員)

- ケニアの小さな村での積極的な活動や様子を聴かせていただきありがとうございました。(愛知県 70代 NPO/NGO)



連絡先:鈴木佳奈 E-mail:kana842447@gmail.com

現役女子大生と一緒に考える 大学生のための性教育

主催: HAATAS (HIV/AIDS Action Team At SHARE)

HAATASは日本の若者から日本の若者へ、同世代の人たちにHIV/AIDS予防啓発活動を行うボランティアチームです。

内容: HAATASはこれまで主に高校生を対象に、HIVに関する授業を行ってきました。この活動を通して、近年は活動範囲の変化とともに交友関係が広がる18~19歳くらいの大学生等への啓発の重要性と可能性を感じています。今回のプログラムでは大学1年生の前期にHIV/AIDSを含む性感染症の授業を行うという設定で、何を、誰が、どこで、どのように伝えれば効果的なプログラムになるのかを、来場者と一緒に考えました。授業を受ける立場の学生にも、授業を行う立場の保健・医療従事者にも参加いただき、双方の視点が飛び交う活発な議論となりました。最後にHAATASが考えた授業案も発表し、来場者から様々なご意見をいただきました。これらのご意見も参考に、今後も若年層に対する啓発を続けていきたいと思えます。

来場者感想:

- 若者が興味を持てるものを切り口にしてAIDSについて知ってもらおうというのは参考にしたいと思いました(東京都 20代 学生)
- 若い方の取り組みや思いに触れることができよかったです(60代 保健医療福祉関係)
- 具体的な授業案が参考になりました(50代 保健医療福祉関係)



連絡先: HAATAS (HIV/AIDS Action Team At SHARE) E-mail: haatas.atshare@gmail.com

Facebook: @HAATASofficial

なぜ、相手の深い話が聞けないのか？

主催: 一般社団法人 日本心理療法協会 代表理事 心理カウンセラー 椎名雄一

内容: 「表面的なやり取りばかりで自分も他人も深く理解できないんです」と感じている方が多く参加されていました。教育でも福祉でもビジネスでも、相手を理解できない人は、自分本位な方法押し付けてしまいます。その解消方法についてご紹介しました。短い時間でしたが「実は妹に負けたくない」、「実はできる人と勘違いされる」、「実は人と関わりたくない」といった本音が会場全体にあふれていました。多くの人が、人の話を深く聞けるようになって欲しいと実感する講演でした。

来場者感想:

- 相手を理解しようとするのは大切だが、自分のことも理解できていないと、理解の深さが変わってくるとわかりました。(神奈川県 20代 学生)
- 話を聞いてほしいと思った。そして、話を聞いてあげたいと思った。(神奈川県 50代)
- 自分ごと、家族のことにリンクし、胸に響いた。(神奈川県 40代 保健医療福祉関係)
- 聴くことの大切さや難しさを学びました。今後はもっと傾聴できるよう勉強していきたいと思えます。(神奈川県 20代 保健医療福祉関係)

連絡先: 一般社団法人日本心理療法協会 〒194-0013 町田市原町田4-1-10(4F)

URL: <http://www.j-mental.org/> E-mail: info@j-mental.org



色々な子どもたちへの性教育～元児相保健師の実践から

主催：神奈川県健康危機管理課

講師：富岡順子（神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課）



内容：発達や家庭に事情を抱えた子どもたちへの性教育について、過去の例を交えながら、それぞれの事例に対する具体的なアプローチを紹介しました。

事例ごとに様々な特徴・課題があり、ひとりひとりの問題に合わせた取り組みを実践していくことが求められます。そのためには、個人の興味や関心を聞き取りの中で把握し、指導法を考えていくことが重要となります。

来場者感想：

- 性教育に関する勉強をさせて頂きました。一人一人、性被害の児童や障害のある子など、丁寧に指導しなければいけない子への指導法を学ぶことができました。まず対象を理解し、その個々に合わせた指導法を準備することが必要と感じました。（40代 保健医療福祉関係）
- 性教育の実践的な話が聞きたかったので、児相の保健師さんのお話はとてもためになりました。（20代 保健医療福祉関係）
- 実際の指導で活用されたイラスト等とても参考になりました。今後の指導に活かしていきたいと思います。（20代 教育関係）
- どのように伝えるか等、参考になりました。まずは自分の体を大切にするという事から伝えていければと思います。また場面、場面での繰り返しの学習等実践していきたいと思います。

連絡先：神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課感染症対策グループ

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL:045-210-4793 FAX:045-633-3770

E-mail:kenzou-kansen@pref.kanagawa.jp

タイの子どもたちとエイズ・人身取引のリアル

主催：横浜YMCA

世界120の国と地域に広がるYMCAは、平和で差別や貧困のない世界を目指して活動している。横浜YMCAは1994年よりタイ・バンコクYMCAと協働し児童保護プロジェクトを進めている。

内容：2018年7月にバンコクYMCAの児童保護シェルターである「YMCAパヤオセンター」を訪れた学生や社会人ボランティアや職員により、現地で聞いた人身売買取引のリアルと、HIV/AIDSの予防普及活動を行っているパヤオセンターを紹介した。グループに分かれて、人身売買の定義を理解するワークショップや、ロールプレイを行った。また、現地で被害にあった女性から聞いたエピソードをインタビュー形式で再現し、人身売買取引の現状や日本との関係性、複雑に絡み合っている課題について理解を深めた。



来場者感想：

- 幼い子どもを出稼ぎに行かせざるを得ない現実が想像以上だったことに何とも言えない気持ちになりました。（神奈川県 40代 学生）
- ワークショップを通して、東南アジア地域での貧困や人身売買の問題を再認識することが出来ました。我々に何が出来るか考えていきたいです。（神奈川県 60代）

連絡先：横浜YMCA 総主事室 国際・地域事業 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

E-mail:kokusai@yokohamaymca.org URL:https://www.yokohamaymca.org/

宗教とエイズ Part 13

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

出演：三橋健（國學院大學大学院客員教授）スターカール ヌカポグ（カトリック雪ノ下教会）

古川潤哉（浄土真宗本願寺派浄誓寺）岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）

内容：横浜で13回目を迎える医師と宗教者の対談ショー。京都と佐賀のフォーラムを数えると通算24回目。テーマは同じでもメンバーが違うこともあり、毎回違う趣でありつつ、単に病気としてのエイズの話では終わらず、生き死にという根本的な問いの話にまで深まります。今回は初めて神道からの登壇もあり、「いのちは神様のものであり、受け取らず預かり、返す」という視点を、カトリックからは「全ては人を愛することがベースである」こと、仏教は「全てはたまたまの縁という関係性によって成り立つ」ことなどを軸に話が展開。道徳と宗教は違うものであることなど含め、現代社会に生きる私たちも、古くから拠り処とされてきた「教え」「信仰」に意味をみいだすことができる話となりました。

来場者感想

- 初めて神道を聞いていろんなことを知れてよかった（神奈川県 10代）
- HIV/AIDS問題に留まらず、倫理・道徳の危うさや愛の尊さについて宗教者から話を聞いて貴重な体験だった（東京都 30代）
- これどうやってまとめるのだろうと聞いていてもスリリングな展開。多様性を認めるにも程があると驚きとともに尊敬（山梨県 40代）
- 良い悪いを決めるのは自分の都合に合わせた相手理解なのだと気づかされた（神奈川県 30代）
- 生老病死、縁の話が分かりやすかった。カトリックの愛についての話、神道の先生の体験に基づく話も分かりやすく理解がすすんだ（神奈川県 60代）
- 前提として必要だろうが前半は本題に入らず退屈だった。後半は各々の宗教から捉えた性が幅広く語られ楽しく学ぶことが出来た。来年も参加したい（東京都 60代）
- それぞれの宗教の立場の考えを知れ、自分の考えがそれらに影響されていることに気づいた（北海道 30代）



クリスチャンpress 宗教とAIDS記事 URL:<https://www.christianpress.jp/religion-and-aids/>

神様がくれたHIV

主催：北山翔子

「神様がくれたHIV」の著者であり、HIV感染の当事者。

内容：アフリカでボランティアをしていた時に受けた抗体検査でHIVが陽性と判明。その後、どのように現実を受け止め、生きてきたのかということをお話しました。毎年、同じ内容のお話をしていますが、今年は参加者が例年より多く、当事者の話を聞くのが初めてという方も多かったようです。

聞かれた方が、そのままの感性で何かを感じ、これから生きていく上で何らかのヒントになればと思っています。

来場者感想：

- お話聞いて良かったです。思ったより、希望がもてるお話で嬉しかったです。
- 北山さんのお話、とても心に残りました。そしてHIVも身近に感じ、学び多いものでした。
- 感染してから今までの経緯を事細かく教えてくださいました。この病気になってから、気づかされたことが多いと聞き、決して悪いことだけではなかったんだと思いました。
- 周りの人の支えがあるということは幸せなことだと思いました。
- 多分同年代、同じように仕事をしながら頑張っていらっしゃる女性としても共感しました。
- 自分の体験と重なるところが本を読んで多いと思ったが、話を聞いてエネルギーを感じた。私もそんな人生を歩みたいと思いました。



連絡先：北山翔子 E-mail:jasmin703aladdin@gmail.com

講演依頼は紳也'sホームページから URL:<http://iwamuro.jp>

にじ色ライフプランニング入門

主催：特定非営利活動法人パープル・ハンズ

性的マイノリティの、高齢期も支え合う、学びの場とネットワーク作りを目指すNPOです。



内容：医療の進歩で長期生存が可能となったHIV陽性者。その一方、「長生きできるようになったがゆえの困難」も、これから顕在化してきます。

この講座では、HIV陽性者も含む性的マイノリティのライフプランのために、知っておきたい「お金」と「社会制度」、「法律」の知識を、あくまで当事者としてそれを利用する立場から、わかりやすく紹介しました。

支援の現場では、「お金」の話は避けられるような印象がありますが、お金がないと人生を過ごしていけないのも事実。お金に関するセミナーは富裕層向けが多いなかで、勝たなくてもいいので、負けないで、低空飛行で人生をわたっていくための情報には、今回も好評な反応をいただきました。

HIV陽性者の長期療養時代を迎え、老後や介護、さらには認知症といった課題にも、これからますます関心が高まっていくと思われます。通常の家族をもたない人をどう支えていくか、これからも医療現場と連携しながら、考えていきたいと思っています。

連絡先：特定非営利活動法人パープル・ハンズ 〒164-0003 東京都中野区東中野1-57-2柴沼ビル41号
TEL : 03-6279-3094 <http://purple-hands.net/> ツイッター :@PurpleHands_net



1人じゃないよ ～SANEからのメッセージ～

主催：SANE team かながわ

『性暴力被害者支援看護師:SANE』と、「性被害に遭うとはどういうことか」を、多くの人に知っていただくための活動を行う。

内容：パワーポイントを用いて、『性暴力被害者支援看護師:SANE』について知っていただくとともに、「性被害に遭うとはどういうことか」を、対談形式で、実際に被害に遭った方から話を聴き、参加された方たちと共に、「私たちはどうしたらいいか」を考えました。

来場者感想：

- とても身近な子が性被害に遭いました。その時、本人を傷つけるような声かけをしてしまったのではないかと、今も落ち込んでいます。しかし、今回参加して、償いとしても本人の支援をしていこうという意志が固くなりました。(福島県 20代 教育関係)
- 難しいことよりも、まずは、食べてる？寝てる？ 寄り添ってあげることが大事だと改めて感じることができました。(神奈川県 40代 教育関係)
- 小さな活動ですが、「教育」という形で、二次被害を与えてしまうようなことを避けていきたいと思えます。(神奈川県 40代 教育関係)



連絡先：SANE team かながわ

E-mail: takasaki.pfui@pref.kanagawa.jp

教室で使える！ HIV/AIDSを伝えるワークショップアイデア

主催：横浜YMCA ACT

語学と国際交流に特化した、横浜駅が最寄りのYMCAです。教育機関・企業での英語レッスンやHIV/AIDS啓発授業も行います。

内容：私たちは年に数校から依頼を受け、中学生を対象に「HIV/AIDSや性感染症予防を伝える啓発授業」を実施しています。1クラス対象のものと、学年全体対象のもの、2パターンをご紹介します。実際の授業経験から得たポイントや効果的なアイデア等を伝えました。

授業の流れを伝えた他、参加者にも実際のアクティビティを体験してもらいました。色紙入りのコップ

を使って参加者同士で混ぜ合い、一人が持っていたHIV(ウイルス)がいかに関わるかを知るシミュレーションのほか、「世界がもし100人の村だったら」のワークショップ(開発教育協会の教材)では、HIV感染者の男女比や大陸別の感染者数等に分かれて、視覚的に体感してもらいました。

参加者の中には中学校の養護教員の方もいらっしや、実際のYMCA ACTの出前授業に興味を持ってくださったようで嬉しく感じました。私たちが伺えない所でも、このようなアイデアを教員の方々に使っていただき、正しい知識が広がることを願います。参加してくださった皆さま、ボランティアの皆さま、主催者の皆さまに御礼申し上げます。



連絡先：(公財)横浜YMCA ACT 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1 YS西口ビル2F

TEL:045-316-1881 FAX:045-314-6805 E-mail:li_info@yokohamaymca.org

URL:<https://language.yokohamaymca.org/english/school/act/>

中高生の心に響く性教育を～性暴力も伝えるには～

主催：遠見才希子

産婦人科医。大学時代から全国500箇所以上で性教育を行う。筑波大学大学院社会精神保健学博士課程在籍中。

内容：中学校、高校での性教育講演会のなかで性感染症や避妊のことだけでなく性暴力も伝えていくためにはどうすればよいか。性暴力被害の事例、性的虐待についての研修会や性犯罪の裁判傍聴を通して気づいた点など、産婦人科医としてまた子どもをもつ親としての視点をふまえて語った。

来場者感想：

- パワフルでテンポが良くて充実していました。気づきがあったので自分なりに深めたい。(神奈川県 40代)
- 対等な視点で話してくれて安心して参加できました。(神奈川県 30代)
- 涙をこらえるのが大変でした。子どもにも聞かせるチャンスがあればいいと思いました。(神奈川県 50代)
- 学校で強制的に参加で面倒だと思ってましたが、会えてよかったです。(神奈川県 20代)
- 昔も今も悲しい話がなくなるのはどうしてなのでしょう。(北海道 50代)



連絡先：遠見才希子

URL:<https://ameblo.jp/emmskk/>

HIV感染と妊娠

主催：平成30年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業 「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」 分担研究「HIVをはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発」班

内容：日本におけるHIV感染妊娠の現状について研究班の調査結果について報告した。HIV感染妊娠は年間40例前後で推移しており、近年ではHIV感染判明後の妊娠が増加傾向にある。日本においては、母子感染予防対策(①HIVスクリーニングによる感染の診断、②抗HIV療法、③選択的帝王切開術による分娩、④帝王切開時のAZT点滴、⑤出生児へのAZTシロップ投与、⑥人工栄養)を完全に実施すれば、母子感染をほぼ防止できるようになっている。実際2000年以降、すべての感染予防対策が確実に行われた症例からHIV母子感染が成立したという報告はない。しかし、医療機関への適切なアクセスができなかった分娩例においてはHIV母子感染が散見されている。諸外国においてはHIV RNA量が検出感度未満の場合は経膈分娩を推奨する流れになっており、日本においても帝王切開の必要性について議論されていることなどを報告した。参加者とは報告データやHIV感染者の妊娠・出産に関してディスカッションを行った。アンケート結果では興味深い内容であったとの感想が多くあった。

連絡先：研究分担者：桃原祥人

〒170-8476 東京都豊島区南大塚2-8-1

TEL:03-3941-3211 FAX:03-3941-9557

HIV感染妊娠と母子感染予防 URL:<http://www.hivboshi.org/>



パワハラ、モラハラ、セクハラ、ラバハラ？—恋人間のハラスメントって—

主催：上村茂仁 (ウィメンズクリニック・かみむら)

内容：このフォーラムでは毎回デートDVについて話しをしています。性感染症の知識、HIVに関する情報、命の大切さをいくら学んでも、その瞬間瞬間で好きな人ができれば、知識も常識もその依存には負けてしまうからです。大切なパートナーから期待され希望されればやはりそれに答えてしまう。それが付き合うっていう事だからです。わたしはデートDVを切り口に相手を思いやること、対等な付き合い、幸せになる為にはという話しをしています。今回はデートDVを恋人間のハラスメントとしてセクハラ、パワハラ、モラハラから説明しました。そしてその根底には寂しさという感情があって、その寂しさを依存することで埋めようとしている。その為に相手から離れられなくなります。でも恋愛というものは少し寂しい少し不安な関係です。その寂しさや不安は時間をかけて埋めてゆくものです。ただその時間がさびしいので色々なものや人とつながっていないと耐えられません。つまりはデートDVの予防は繋がるという事です。私はそれをリア充と説明しています。リア充とは彼氏や彼女がいるってことではなくて、繋がっているものがたくさんあること、居場所をたくさん持っているって事、それは人でも物でも環境でも何でもいい。1つの物(人)に強く依存しないで、多くの物に弱く依存出来る事を目標とする。そしてその繋がりはSNSのなかにもあります。

来場者感想：

- 大人の性の考え方や捉え方が、結局子ども達の社会環境や生活環境に影響すると考えました。思いやりや優しさも、度が行き過ぎたら有害になること、アドレナリンのように必要な上で良い作用、超えると危険なものになるのでトレーニングがいます。(30代)
- とても勉強になりました。共感できる話や過去の経験に通じる話が多くて来てよかったです。(20代)
- 恋人や親に過度に依存しない為に依存先を増やすという事がとても興味深いです。恋人にべったりくっつく人というのはかなり母親から依存されてきた人が多いような気がしています。(50代)
- あらゆるハラスメントについてとても勉強になりました。(20代)
- すぐくためになった、友達がラバハラを受けている様に見えたけど、それをもっと深く感じた。一番興味深かった。(10代)



連絡先：上村茂仁 e-mail:kamishige0315@gmail.com

〒700-0901岡山市北区本町4-18 コア本町3F ウィメンズクリニック・かみむら

メディアの向こうのリアルとつながれ！ ～#想像力を培い直そう～

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

出演：下村健一(白鷗大学客員教授/元TBS報道キャスター)

宮崎豊久(ネットスター株式会社)

岩室紳也(ヘルスプロモーション推進センター)

内容: ネット社会になり、私たちは人類史上最も多くの情報に触れているのではないのでしょうか? 知りたい情報をネットで検索することが日常化しましたが、まとめサイトなどで簡単に理解できるものが好まれ、私たちは次々現れる情報に対して、本当に正しいことか考えることも、掘り下げて理解を深める余裕すらなくなっていました。

これは、単にネットやメディアの課題に留まらず、多くの社会問題を考える上でも、安易に目先の課題を無くすことばかり考え、対象者を絞って対策を行うことが一般化して、普段の生活に潜むリスクになかなか目を向けられなくなったことに改めて気づかされるお話でした。

下村先生が進める情報に踊らされないための(ソ・ウ・カ・ナ)4つの疑問をおさらいしてみましょう。

ソ: 即断するな

ウ: 鵜呑みにするな

カ: 偏るな

ナ: 中ばかり見るな(スポットライトの)

この疑問は情報を理解する場面だけでなく、コミュニケーションや社会問題を考える上でも、意識していかなければならない理論ではないのでしょうか?



来場者感想:

- メディアリテラシーのお話大変参考になりました。(ソ・ウ・カ・ナ)本校中学生にも伝えたいと思います。ありがとうございました(50代 教育関係)

連絡先: 下村健一 URL: <http://shimomuraken1.com/contact.html>

性教育をやってみよう！看護師からの性教育実践方法

主催：星野貴泰

手術室看護師として働く傍ら性教育講演活動をしています。

日本思春期学会理事、ぐんま思春期研究会理事、日本思春期学会性教育認定講師。

内容: 性教育の課題として「性教育を含めた健康教育ができる人材が少ない」ことがあります。今回の分科会の目的は性教育ができる人を増やし、教員、学生、いろいろな立場の人が抱える「伝えたい思い」の伝え方を紹介したいと思います。

発表内容は、実際の中高校生対象の性教育の内容を紹介し、看護学生が作成した5分間のスピーチと心に響くメッセージの作り方の紹介、看護師が学校現場に入って性教育をする上でのコツ、性教育の失敗談をお話しました。



来場者感想:

- 私自身避妊をししてもらえず、それを受け入れてしまったことがありました。緊急避妊用ピルを服用しましたが、たった数十分のミスで人生が変わってしまうことがあるんだと改めて思いました(20代 教育関係)
- 普段青少年とつきあっており、いい形で性教育がどうできるか考えています。その中で今日の切り口というか先生の方法は子どもに寄り添える内容だと思います(50代 居場所施設)

連絡先: 星野貴泰 ※講演依頼があればどこへでも出かけますので下記連絡先にご相談ください。

E-mail: tkstarys.lovelives@gmail.com URL: <http://tkstarys.com>

薬物依存症になってからの回復

主催：ナルコティクスアノニマス

内容:ナルコティクスアノニマス(以下、NAと称します)のメンバー3人が薬物依存症であればどんな薬物依存症者でも薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができるというテーマで体験談を話しました。

また、NAについて私たちは非営利団体であり、メンバーになるための条件はなく、入会金や会費もかからない事と定期的なミーティング参加と仲間同士の支援がこのプログラムの基盤になっている事を説明しました。

NAは断薬を基本とした回復プログラムでありアルコールを含む全ての薬物を完全に断つというものです。

そしてNAは世界中の薬物依存症に回復チャンスを提供しています。

特定の薬物にとらわれることなく私たちは依存症という病気に焦点を合わせて活動をしています。初めてミーティングに参加したメンバーに唯一求めることは、薬物の使用をやめたいという願望だけです。私たちはその薬物依存症者に手を差し伸べることを目的に活動しています。

来場者感想:

- 有意義でした。(東京都 50代)
- 社会に対し、どのように共感を呼んだら良いのか考えるきっかけになりました。(神奈川県 50代)

連絡先:ナルコティクスアノニマスジャパンセントラルオフィス 〒115-0045 東京都北区赤羽1-51-3-301

TEL&FAX:03-3902-8859(FAXは24時間受付けています) 営業時間 毎週火曜19時~21時 毎週土曜13時~17時

E-mail:najapan.pi@gmail.com URL:http://najapan.org

notAlone(ひとりじゃないよ) 気づいて、デートDV

主催：認定NPO法人エンパワメントかながわ

いじめや虐待など様々な暴力をなくしていくため、「暴力を受けていい人は一人もいない」という人権を伝える活動をしています。

内容:デートDV啓発のためのオリジナルソングを作詞作曲したシンガーソングライターのyounA(ゆうな)さんをゲストに迎え、歌に込めた思いをインタビュー形式で聴いた。

デートDV防止全国ネットワークのサイトとして開設したデートDV情報発信サイトnotAlone(愛称ナタロン)を使って、デートDVの実態や種類、その特徴について説明し、それぞれの参加者の身近にあるデートDVについて語り合った。HPナタロンを多くの人に知ってもらおうこと、また、younAさんのオリジナルソングでミニライブを開催し、デートDVについてさらに知識を広めようと話し合った。

来場者感想:

- デートDVについて初めて知った
- 自分の身近にも起きていたことに気づいた
- とてもきれいな歌声で心打たれた

連絡先:認定NPO法人エンパワメントかながわ

〒221-0834横浜市神奈川区台町26-11-103

TEL:045-323-1818 FAX:045-755-7007

E-mail:kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp URL:http://npo-ek.org/

デートDV110番サイト <http://ddv110.org/> デートDV情報発信サイトnotAlone(ナタロン) <http://notalone-ddv.org/>



一瞬で気持ちを切り替える方法

主催：精華学園高等学校町田校 校舎長・心理カウンセラー 椎名雄一

内容：前日の講義があまりに盛り上がり、拍手喝采・大騒ぎをしていたので、興味を持って参加してくださった方が数名いました。深刻なテーマを笑いながらユーモアたっぷりに解消する方法を実演する中で会場全体がにぎやかな雰囲気に。90人部屋いっぱいの方が「ふざけすぎて今は悩めません」となっていたのが印象的でした。家や職場、学校などでぜひ実践して欲しいと思います。



来場者感想：

- 家族との関係や職場の人とのコミュニケーションの取り方等のヒントがたくさんつまったお話、ありがとうございました。「また、やってみよう！話してみよう！」という気持ちになりました。(40代 東京都 NPO/NGO)
- 嫌なことがあったときに気持ちを切り替える方法を実践してみようと思います。大学生の息子にも教えてみます。悩み多き息子なので、本人の気持ちをじっくり聞いてあげようと思いました。(神奈川県 50代 その他)
- ポーズ、呼吸、姿勢、先行刺激、こだわりのテーマなど、おもしろい考え方をたくさん教えていただいてよかったです。(神奈川県 50代 教育関係)

連絡先：精華学園高等学校 町田校 〒194-0013 町田市原町田4-1-10(4F) TEL 042-739-7140

URL：<http://seika-machida.jp> E-mail：info@seika-machida.jp

お坊さんが行う性教育授業 ver.8

主催：古川潤哉 浄土真宗本願寺派僧侶

中学・高校にて「生と性と死を考える」性教育を実施

内容：参加者の皆さまには『今の』中学3年生になりきってもらい、模擬授業を体験していただきました。それぞれの中学生時代とは社会背景やツールに違いがありますが、本質的には子どもが変わったわけではなく、今という時代に適応して生きているということは見落としがちですが重要なことと考えます。佐賀県DV総合対策センターの予防教育枠の中で実施している「生と性と死を考える」は、大人が思っているよりも生き死にの意味を身近に考える中学生向けに「性は生きることそのものに関わること」であり、自分の話であることに気づいてもらうためのものです。生と死が逆の意味や別のことではなく一つのことであること、いつからいつまでを自分のいのちと言えるか？いのちの大切さとは何を言おうとしているのか？そんなことを一緒に考える時間としています。



来場者感想：

- 生と死について改めて理解するための助けとなる良い講演(神奈川県 40代)
- 普段から何も考えないで生きていることがわかった(群馬県 50代)
- 楽しい。具体的で分かりやすい。宗教の話も良かった(北海道 50代)
- フルパワーふるじゅんの2時間。圧倒的な知識量とするどいつッコミで今の自分の課題のヒントを得た(山梨県 40代)
- 道徳偏重の恐ろしさに共感できた。生と死を考えることができた(山梨県 70代)
- 生と死のあり方。話し方も面白く他者に説明できる内容で参考になった(神奈川県 30代)
- 若者教育も「今向け」でなければならない点に苦労しているので共感できた(神奈川県 30代)

連絡先：古川潤哉 E-mail：junya@joseiji.org URL：<http://furujun.info>

特別企画 夜回り先生

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

出演：水谷 修



内容:すっかり定着した、夜回り先生の授業。今年はずいぶん前と違った話を、ということでお話しいただいた。近年のセクシャリティや障がいへの差別発言や事件に対する怒りについてのお話から始まり、しかしその「差別する心」は誰もが持っているということに、講演の冒頭から気付かされる。27年間、夜の街を見回り続けて子どもたちと触れ合っていく中で「夜眠れない子どもたち=夜回りしていても会えない子どもたち」の存在に向き合い、「今までのことはみんなみんな、いいんだよ」を伝える活動を続けていく中で出会った、様々な子どもたちとの奮闘が、テンポよく伝わる。最後に教えていただいた、27年前の教え子と夜回り先生のストーリー。貧困、いじめ、助けてくれた暴走族の仲間、そしてシンナー…。依存症とは何なのか、繋がりとは何なのか。改めて考えさせられた。

来場者感想:

- 「夜まわり先生」ずいぶん前に読ませていただき、いつか先生の講話をお聞きしたいと思っていました。熱のこもった講話に感動しました。心の病は、体から。先生の言っていることに納得しました。(栃木県 50代)
- 「生きて生きて生きぬけ」という言葉が心に響きました。沢山の方々に水谷さんの講演を聴いていただきたいです。(神奈川県 20代 学生)
- 夜回り先生のお話を聞いて、とても感動しました。中学生のとき、リストカットをしていたことがありました。家族関係、友人関係で悩んでいた時期でした。今回の講演で自分が思っていたことが話されていて、驚き、心が救われた気がしました。(神奈川県 10代 学生)
- 仕事に生かすために来ましたが、自分の人生のために大切なことがたくさん聞けました。涙が止まりませんでした。あつという間の120分でした。いつか娘と来たいです。(神奈川県 30代 保健医療福祉関係)
- 自己肯定感を持てるための家庭環境とは何か、考えさせられました。お話1つ1つがとても響き感動しました。ありがとうございました。(神奈川県 30代 学生)

連絡先: 水谷修 URL: <http://www.mizutaniosamu.com/>

HIV感染者の分娩と未受診妊婦の問題

主催：認定NPO法人AIDSネットワーク横浜

講師：水主川 純 (東京女子医科大学産婦人科講師)

1993年設立。電話相談、出前講座、イベント開催など、広く一般市民に対してHIV、AIDSの啓発、相談活動を展開。文化フォーラムには1回目から参加。



内容:水主川(かこがわ)先生は、浜松医大、国立国際医療研究、聖マリアンナ医大で分娩や妊婦健診にあたる傍ら、「飛び込み分娩」や「未受診妊婦」、「望まない妊娠」等の社会問題の解決や啓発に力を入れられ、この4月から東京女子医大に移られました。今回は、今年3月に出された「HIV感染妊婦の診療ガイドライン」にも触れて、妊婦検査、HIV感染妊婦の現状、出産方法、手術体制など、現場の対応を交えて展開され、やさしくお話をされました。さらに望まない妊娠、飛び込み分娩、育児放棄、児童虐待の話もあり、受講者の目が輝いていたのが印象的でした、

来場者感想:

- 出産に関していろいろ聞けたのも身になりましたが、AIDSとのかかわり、他人事ではないと感じました。
- とてもおもしろく、興味深かった。
- HIVの母子感染が、適切な治療で避けられるということを知った。社会全体で知識を共有することが大切。
- 産科医療側から見たHIVなど色々な面からの話でよかった。
- 色々知らないことが知れてよかった。
- 感染妊婦の実際の子育てに関する話を聴きたい。特にどんな支援を受けて自立できたかを。

連絡先: 認定NPO法人AIDSネットワーク横浜 〒231-0015横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9階横浜AIDS市民活動センター内 TEL:045-201-8808 FAX:045-201-8809 E-mail: any@netpro.ne.jp URL: <http://www.netpro.ne.jp/~any/>

薬害エイズの教訓は生かされているのか

主催：薬害エイズを考える山の手の会

配布資料：当日の案内・薬害エイズ年表・毎日新聞記事(くらしナビ-子宮頸がん検診「島根方式」・勸奨中止再開可否議論足踏み)HPVワクチン薬害東京訴訟第7回期日案内・薬害根絶デーチラシ

内容：最初に薬害エイズ被害者から年表を用いながら被害の状況と経過を話し、そのあと6名のHPVワクチン被害者家族から被害の話をして、薬害エイズ当時記者として現場取材した毎日新聞の山科武司さんをコメンテーターとして薬害エイズの解説を加えながらHPVワクチン被害者に質問、その後参加者との話し合いで終わりました。

病気の原因が長い間不明で周囲の無理解や医師の冷たい対応に苦しめられる被害者の状況は薬害エイズもHPVワクチン副反応被害も同じです。HPVワクチン副反応被害者は医師が精神的な問題と診てくれず病院も数十回転院して回る状態で被害者の心労も積み重なります。苦しみの中にある薬害被害者の生の声を聞き、共に薬害根絶に向けた活動を続けていくことを確認した学習会でした。



連絡先：薬害エイズを考える山の手の会・江川守利

E-mail: egawa.moritoshi@topaz.plala.or.jp

Ribbonを繋ごう！

主催：AIDS文化フォーラム in NAGOYA

HIVなどの性感染症予防や望まない妊娠・出産からの児童虐待防止の為に避妊具の使用を啓発し、自分の身を守るように若者や子ども達への性教育にも力を入れ、大人世代に対しても定期的に勉強会を開催しています。

内容：昨年のAIDS文化フォーラム in NAGOYAの『ジミー・ハットリと性を考えよう！』のトークセッションの中で、HIV/AIDS以外の活動家が抱える様々な問題での共通点や、問題に対するアプローチでの共通点など、たくさんの共通点を見つける事が出来ました。この一年間仲間たちと連携しながら活動をする事で、今まで以上に効果のある啓発活動が可能になりました。今年はリボン運動の活動家を繋ぐ事で新しい活動の幅が広がるのでは？と今回の企画を考えました。レッドリボン：岩室紳也さん、オレンジリボン：峰たかしさん、イエローリボン：白井長興さん、スプリング・グリーンリボン：阿部真紀さん、パープルリボン：上村茂仁さん、レインボーリボン：かずえちゃんの6色6名のトークセッションで6色のリボンを繋ぎ、更に横浜から名古屋へ繋ぐという壮大な企画になっています。

主催者感想：

冒頭から「自殺」の問題など若者たちの「命」が脅かされているといった発言があり、様々な問題の本質を考える場となりました。かずえちゃんからは「カナダに行くまでは、結婚が出来るなんて考えた事もなかった」と環境を変えることの大切さを、白井さんからは出来ない決めつけるのではなく、出来る環境を作ることの大切さを学びました。峰さん、阿部さん、上村さんからは「様々な虐待の根底には共通する問題がある」ことが報告され、それらの問題の根底に「居場所がない」、「自己肯定感の低さ」などへの取り組みが求められていることが明らかになりました。各々のスピーカーがお互いの活動を知り、たくさんの共通点に気づき、同じ活動をしている仲間の様な一体感が生まれ、主催者自身が感動させていただきました。

連絡先：

籠谷倫親
(こもりや のりちか)

E-mail:
komoriya@jimmy-hattori.com



横浜

名古屋

感染者・患者の生活とソーシャルワーカーの役割

主催：認定NPO法人AIDS ネットワーク横浜

講師：友田安政（横浜市大付属病院地域連携課福祉相談担当係長
ソーシャルワーカー（S.W.））

1993年設立。電話相談、出前講座、イベント開催など、広く一般市民に対してHIV、AIDSの啓発、相談活動を展開。文化フォーラムには1回目から参加。



内容：人は自分の病気を知ると様々な不安が生じる。HIV陽性者は、それらの不安が通院継続を妨いでしまう可能性がある。その為なるべく早期の面接を心がけている。その都度、色々な情報を提供することにより安定した通院を継続する事が重要。例えば、医療費の実際、社会福祉制度、プライバシー漏洩に関する正しい情報提供等。また「疾患や治療を正しく理解しているか」、「プライバシーに関する配慮が必要か」、「心理的な支えはあるか、支援は必要か」等も大切。差別や偏見は以前に比べ解消されつつあるが、今も「HIV陽性者」である事による「社会的な生きづらさ」は存在する。問題や課題を決めるのも、解決したかどうかを判断するのも患者さんである。

来場者感想：

- 自立支援医療ですが、東京都では薬局2つの登録ができるのですが、横浜はどうなのかなと思いました。とても判りやすかった。
- 詳しく分かりやすい話でとても良かった。
- SWの働きが患者の生活の向上に大きな役割を果たしていることを知ることができた、3月で福祉関係を退職したが、また、何か役立つことがあればやりたいとの思いを抱かせてもらった。
- SWさんのおかげで患者の不安が軽くなると思いました。

連絡先：認定NPO法人AIDSネットワーク横浜 〒231-0015横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9階横浜AIDS市民活動センター内 TEL:045-201-8808 FAX:045-201-8809 E-mail: any@netpro.ne.jp URL: http://www.netpro.ne.jp/~any/

すきまミニ講座

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

講師：山田雅子

内容：2011年から講座と講座の間の時間帯(すきま時間)にミニ(30分)で簡単な講座を開いています。今年も昨年同様のテーマでお話しさせて頂きました。

8月3日(金)①30分でわかるHIV/AIDS としてHIV感染のしくみ、検査、治療、感染するとどうなるのかなどに加え最近の医療の動向をお話しました。

8月4日(土)②昨年と同じく、予防のためにどうやってパートナーとの意思疎通を図るかというお話でした。相手に「自分の思いを伝える」ために「問いかけてみる」ことを提案しました。「問い」は考えることにつながるということ、自分のことも相手のことも一生懸命考える人になりたいというお話をしました。

8月5日(日)③看護学生と病院で実習をしていると、学生は時々目を見張るような素晴らしい看護の力を発揮します。その力を育むものは「想像する力」です。そこにどうやってつないでいくのか、指導しながら考えていることをお話しました。

講座の後に質問をたくさん頂きました。私も勉強を重ね今後もより充実した活動ができるように努力します。

来場者感想：

- 看護師さんのお話は説得力があって、聞けて良かったなと思いました。(神奈川県 10代 学生)
- 想像力について改めて考えさせられた。「問う」ことの大切さに気づかされた。(東京都 40代 その他)
- 「なんで～したの！？(しなかったの！？)」とつい言ってしまいがちです。医療現場でも好ましくない言葉ですね。すきま講座は短い時間ですが学生との話は興味深かったです。(北海道 50代 保健医療福祉関係)

連絡先：山田雅子(早稲田速記医療福祉専門学校 看護科) 〒171-8543 東京都豊島区高田3-11-17
TEL:03-3200-8080 E-mail:yamada@kawaguchi-g.ac.jp



展示プログラム

アジアの女性と子どもネットワーク

タイで教育支援、AIDS孤児支援活動などを実施する他、国内では子どもの性的搾取に反対する活動を続けている。

内容:タイでは1990年前後に爆発的にAIDS患者が増え、大きな社会問題になりました。その爆発的に患者が増えた時に生まれた母子感染の子どもたちが現在は青年期を迎えています。母子感染で生まれた頃には5歳くらいまでしか生きられないだろうと考えられていましたが、親が亡くなった後もAIDS孤児院などで育てられ、薬の進歩のおかげで、抗ウイルス薬を服用しながら成長しました。自立して一人暮らしを始めたり、恋人ができたりとそれぞれが自分の人生を歩き始めています。その青年期を迎えたAIDS孤児たちに新しい問題が起きています。周りの友人や将来を語り合うパートナーにカミングアウトができずに薬を飲み忘れるようなことや、隠しておきたいために薬を止めてしまうことがあるようです。定期的な検査のために仕事を休むことで、周りの人に感染が知られることを恐れ、定期健診もおろそかになることもあります。CD4が下がり体調が悪くなってしまい、どこにも相談できず、AIDSを発症して重体になってから出身のAIDS孤児院に戻って来る人もおり、中には亡くなってしまったケースもあります。複数のAIDS孤児院から同じような話を最近聞くようになりました。

抗ウイルス薬は定期的に、同じ時間に飲み続けることが重要ですが、飲み忘れや、飲まないことが続くと薬に対する耐性ができて、薬を変えなければなりません。そうすると30パーツ診療の範囲を超え高額な薬代が負担となって薬を飲むことができないようになることもあるようです。

青年期を迎えたAIDS孤児たちの問題は、決して他人ごとではありません。HIV/AIDSに対する理解をしっかりと広めていくことの重要性を、改めて感じています。

連絡先:アジアの女性と子どもネットワーク 〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F 横浜AIDS市民活動センター内 TEL/FAX:045-650-5430 E-mail:awc@h6.dion.ne.jp URL:<http://www.awcnetwork.org/>

カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク

1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。いろいろな人と話題作りになるようなレッドリボンのグッズや啓発の小冊子を紹介しています。

内容:新作のネクタイバーとピンタック、デスクのロゴを目立たせたトートバッグ、キーホルダー、ビーズバッジなどを紹介しました。小冊子『HIV/AIDSについて話したことがありますか〜改訂版』やミニカード、ロゴのシールを配布しました。ワークショップ・コーナーで好きなスタンプをトートバッグに押しつけてオリジナルのバッグを作ったり、レッドリボンのキーホルダーを好きなパーツに付け替えて、ペンダント・トップや根付けにしたり、周囲の人とHIV/エイズの話のきっかけになるようなものができたら良いと伝えました。

来場者の皆さんや他の展示団体の方々、横浜雙葉学園の茶道部の生徒さんたちと交流でき、大変有意義な時間を過ごせました。

今年のテーマ、「#リアルとつながる」、オープニングの「リアルじゃない？エイズ〜えっ、まだエイズってあるんですか？〜」は、最近いろいろな場面で耳にします。正しい知識を知ることや、周囲の人と話題にすることが、予防になり、偏見差別をなくすことだと伝えるために、このフォーラムは大切だと実感しました。

連絡先:カトリック中央協議会 社会福音化推進部 HIV/AIDS デスク
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
TEL:03-5632-4413 FAX:03-5632-7920
E-mail:hivaidscbcj.catholic.jp URL:<http://www.cath-aids-desk.jp>
Facebook:<https://www.facebook.com/hivaidscbcj/>



神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課

内容: かながわ県民センター入口付近のロビーにて展示を行いました。エイズ及びHIVに関する様々な統計データや匿名検査の案内などの情報が掲載されているAAA(Act Against AIDS)作成の知識啓発パネル6枚を展示するとともに、中高生向けの啓発冊子『じぶんたいせつぶっく』『FOR YOU』や、性感染症予防を呼びかける『STOP STI!』他各種パンフレットに加えて、ウェットティッシュやクリアファイルといった啓発グッズを配布し、HIV・エイズに関する情報提供を行いました。また、神奈川県が取り組んでいる持続可能な開発目標SDGs(Sustainable Development Goals)に関するチラシの配布も同時に行いました。展示スペースには学生の方を中心に多くの来場者の方々にお越しいただき、たくさんの啓発資材を手にとっていただけました。特にクリアファイルは当初想定していた以上の数を配布することができたので、学校生活の中などでも使用しながら、予防意識の向上に役立てていただきたいと思います。



連絡先: 神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課感染症対策グループ
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL:045-210-4793 FAX:045-633-3770
E-mail: kenzou-kansen@pref.kanagawa.jp

神奈川県ユニセフ協会

公益財団法人日本ユニセフ協会の地域組織として、2005年9月に設立した(財)日本ユニセフ協会神奈川県支部を前身とする任意団体です。公益財団法人日本ユニセフ協会との協力協定に基づく「協定地域組織」として、世界の子どもの生存・発達・保護・参加のための広報、募金、学習支援などのユニセフ支援活動を、神奈川県内において促進することを目的としています。

内容: ユニセフの主な活動分野の一つに「HIV/エイズ」があります。SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」のターゲット3.3「HIV/エイズなどの感染症や肝炎、水によって感染する病気などの流行を終わらせる」を柱に、パネルや映像を通してユニセフのエイズに関する支援活動の紹介をしました。3日間で延べ200名以上の方へユニセフの支援活動についてお知らせすることができました。

その他に、来場者に高校生のインターン生が考えたエイズについてのクイズにご参加していただきました。

連絡先: 神奈川県ユニセフ協会
〒231-0058 横浜市中区弥生町2-15-1
ストークタワー大通り公園Ⅲ305A
TEL:045-334-8950 FAX:045-334-8951
E-mail: info@unicef-kanagawa.jp
URL: http://www.unicef-kanagawa.jp



ナルコティクスアノニマス

内容:ナルコティクスアノニマス(NA)は1953年に創立され、現在131ヶ国で週に58,000以上のミーティングが開かれています。定期的にミーティングに参加し、私たちが提供する12ステップのプログラムを実践すれば、依存症から回復することが可能です。同じ回復途上の依存症者が集まれば、メンバー同士は助け合い、お互いを継続的に支援することができます。NAを通じて薬物抜き的人生が歩めるでしょう。

私たちの団体名を直訳すると[薬物・匿名]という意味になりますが、決して特定の薬物だけに焦点を合わせている訳ではありません。NAでは、アルコールを含むどのような薬物も同じであると考えています。メンバーであるための費用は一切かかりません。また私たちはあらゆる政府機関、宗教団体、警察や精神科を含む医療機関など他の組織とは一切提携を結んでいません。依存症者の手助けをしたいと思う人と手を取り合い、世界中の依存症者に回復のメッセージが届き、それぞれの母国語と文化に適応したサービスが行き届くまで、この活動を続けたいと思っています。



連絡先:ナルコティクスアノニマスジャパンセントラルオフィス

〒115-0045 東京都北区赤羽1-51-3-301

TEL&FAX:03-3902-8859(FAXは24時間受付けています)

営業時間 毎週火曜 19時~21時 毎週土曜 13時~17時

E-mail:najapan.pi@gmail.com URL:http://najapan.org

横浜AIDS市民活動センター

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設です。2010年より(公財)横浜YMCAが受託し運営しています。

内容:

●HIV・エイズに関する新聞記事の展示

センターでは新聞の記事を毎日収集、閲覧用に保管しています。今年には最新のLGBTQの記事も掲示しました。

●ニュースレターおふん、パンフレットなど啓発物品の配布

年4回発行している「おふん」を拡大し掲示。「特集 夏休み前にこんな時どうする？」を活用したいとの声をいただきました。普段お目にかかりづらいHIV/エイズのパンフレットも配布できました。

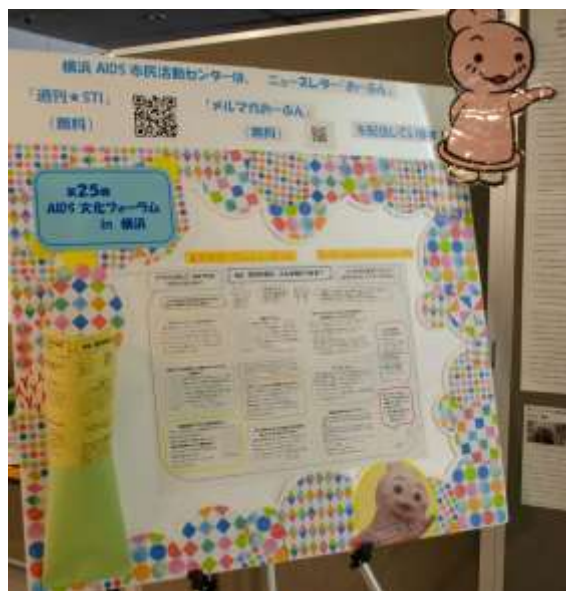
●「センターの mascot キャラクター・コムちゃん」登場

講座の間の休憩時間に「コムちゃん」が展示会場に登場。「ジミー・ハットリ君」と仲良く！

連絡先:横浜AIDS市民活動センター 〒231-0015横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F

TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422

E-mail:info@yaaic.gr.jp URL:https://www.yaaic.gr.jp/



横浜YMCA

世界120の国と地域に広がるYMCAは共通のミッションに基づき、「平和」で「差別」や「貧困」のない世界を目指している。横浜YMCAでは特にアジアのYMCAと協力し、プロジェクトを行っている。

内容:横浜YMCAは1994年より、タイ・バンコクYMCAと協働し、「プロテクト・ア・チャイルド」プロジェクトを行っている。タイ北部にある人身売買予防止シェルター「パヤオセンター」では、子どもや女性の自立のために教育支援や職業訓練、ライフスキルトレーニングを行っている。また、人権、人身売買、HIV/AIDSの予防啓発活動も行っている。今回は、パヤオセンターで製作されているフェアトレード商品「パヤオクラフト」の販売と活動紹介をした。

横浜YMCAのボランティアと職員がブースに立ち、クラフトの販売を通して、「パヤオクラフト」が「パヤオセンター」の子どもたちにより一つ一つ刺繍され、作られている商品であること、そのことが子どもたちの商業訓練の一環になっていることなどを紹介した。

来場者の方に、「パヤオクラフト」販売を通して、人身売買やHIV/AIDSの問題について知っていただくことが出来た。また、ボランティアや職員にとっても「パヤオセンター」やHIV/AIDSへの理解を深める良い機会となった。

連絡先:横浜YMCA 総主事室 国際・地域事業

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 TEL:045-662-3721

FAX:045-651-0169 E-mail:kokusai@yokohamaymca.org

URL:https://www.yokohamaymca.org/



ATAC&ABCD&SKHG in NARA

ATAC(ANTI TUBERCULOSIS ASSOCIATION CONFERENCE)は、結核やエイズやその他感染症をこれ以上広めないために、ABCD(ANTI BREAST CANCER DISCUSSION CONFERENCE)は、乳がんの予防と早期発見と治療について理解を広める活動を行います。

内容:①エイズ・結核の予防と乳がんについて早期発見と治療を学習。リンパマッサージと禁煙についても学習します。アンケートによる熟知率・認知率の確認。②乳癌自己検診の啓発

◇アンケートの結果: 総計50名回答。(男10名:女40名)。10代20代女性29人。

結核アンケート結果: 初回参加者回答27人。25回連続参加者1人。全10問。熟知率・認知率:60%。結核アンケート結果: 全1問。熟知率・認知率:54%。問2「肺結核の症状は風邪によく似た症状」エイズアンケート結果: 全2問。

熟知率・認知率:70%。問3「低用量ピルはHIV感染の予防にはならない」

乳がんアンケート結果: 全2問。熟知率・認知率:53% 問6「日本人女性の6人に1人が生涯の間に乳がんにかかる」禁煙アンケート結果: 全1問。熟知率・認知率:76%。問7「喫煙は口腔がんや歯の喪失や歯槽膿漏を招く」

リンパマッサージアンケート結果: 全2問。熟知率・認知率:52%。問8「リンパマッサージをする際は副交感神経を働かす事が大切です」

◇アンケートの評価: エイズアンケートの熟知率・認知率は高く回答者のエイズに関する理解度の高い事がわかります。また禁煙の熟知率・認知率も高かったです。一方、結核アンケートの理解度は上昇しており、今後も経年的に正しい知識を伝える必要があると考えられました。参加者の理解や社会の関心を高めるために、AIDS文化フォーラムに今後も参加いたします。

連絡先:代表者: 畠山雅行 FAX:0743-78-9841

E-mail:m-hatake@m4.kcn.ne.jp



N hermitclub

HIVなどの性感染症予防や望まない妊娠・出産からの児童虐待防止の為に避妊具の使用を啓発しています。正しい知識を身につける事で、自分の身を守れるように若者や子ども達への性教育にも力を入れています。

内容:『ジミー・ハットリ君と AIDS について考えよう。』

- ①講座の休憩時間に展示スペースにジミー・ハットリ君が登場。
- ②ジミー・ハットリ君の活動をパネルで展示。



今年は私達の講座があったため、ジミー・ハットリに看板をぶら下げて講座の告知をしたり、私立横浜雙葉中学高等学校の茶道部の子たちと一緒にお茶室の案内などをしました。今回で3回目の参加になりますが、今年も会えて嬉しい！と言ってくれる方がとても沢山いて、大変嬉しい気持ちになりました。その反面、やっている事が毎年同じでパツとしないので、もっと沢山のイベントや啓発活動に参加し知名度を高めたり、事前にSNSでAIDS文化フォーラム in 横浜の告知をするなどして、ジミー・ハットリに会いたくて来場してくれる方が増える様に頑張ろうと思いました。また、普段の活動を充実させて、来年はより良い展示にしたいと思います。今年もAIDS文化フォーラム in NAGOYAを開催するので、横浜で学んだ事を名古屋にも繋げていきたいと思っています。

連絡先: 代表: 籠谷 倫親 (こもりや のりちか)
E-mail: komoriya@jimmy-hattori.com



NPO法人 HIVと人権・情報センター

1988年に大阪で設立された全国規模の団体です。設立時から現在まで一貫して、感染経路やセクシュアリティを区別せず、等しく支援しています。社会的偏見の克服と共生を目標に掲げ、HIV/AIDSの総合的な問題解決に取り組んでいます。今年はおかげさまで、団体設立30周年をむかえました。

内容: 夏仕様のデコレーションを施したパネルで団体の活動内容を紹介しながら、各種啓発グッズの展示を行いました。毎年恒例の「HIVクイズ」は今年も実施し(今回は8/4~8/5実施)、2日間で165名の方々にチャレンジしていただきました。「HIVクイズ」は8問。それぞれの設問に対して「正しい」「正しくない」のどちらかに○をつけて解答していただく方式で、32%の方が全問正解されました。

クイズの設問で「感染者の血液を吸った蚊に刺されると感染することがある」(正解は「正しくない」)は約27%の方が誤答されており、「日常生活では感染しない」ことを引き続き伝えていくことの重要性がうかがえる結果となりました。また、来場者のなかには「最近の事情を知ることができてよかったです」と語ってくださる方もおられ、ブースを運営するスタッフの原動力となっています。

四半世紀もの長い間、このフォーラムを続けてこられた関係者の方々に感謝申し上げるとともに、今後も来場者の方々と一緒にHIV/AIDSを考える場を創っていききたいと思います。

連絡先: 特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-2 吉田ビル2F
TEL:03-5259-0622 FAX:03-5259-0643
E-mail: info@npo-jhc.com URL: http://www.npo-jhc.com



特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター

神奈川県内の外国籍住民の住まいや生活などに関する相談を受けているNPOです。さまざまな視点から多文化共生を考えたいとの思いから2015年度からAIDS文化フォーラムに参加しています。

内容:当団体の活動について、英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語で掲示し、相談の様子を展示したり、9言語で作成されたすまい探しに関するマニュアルや、リーフレット等の配布を行いました。

普段、窓口で相談対応に携わっているスタッフが交代で展示ブースに常駐し、かながわ外国人すまいサポートセンターの活動について、来場者や他団体のスタッフに説明しました。

また、展示会場で一緒だった他団体の方とも意見交換ができ、そのつながりを今後の活動のに生かしていけるいい出会いの場になりました。

●参加者の感想

- ・エイズに関わること以外でも、社会的に弱い立場の人たちの支援をする団体がたくさんあるということを知りました。世の中には外国人や障がい者だけでなく、特別な形で支えが必要な方がいるということも知れました。
- ・エイズ文化フォーラムがたくさんの団体と人に支えられているのだと実感しました。大学で福祉を学んでいますが、とても深いかかわりがあると思いますので、大学の勉強にも生かしたいと思いました。



連絡先: 特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA 2階 TEL:045-228-1752 FAX:045-228-1768

E-mail: sumai.sc@sumasen.com

私立横浜雙葉中学高等学校 茶道部

中1～高2の部員が所属し、日々お点前のお稽古、着物の着付けの練習を積み、文化祭等で呈茶・発表しています。



内容:今年度は1階で他のブースの皆様の最奥に場所をいただき、

「茶道部」の暖簾を飾り、部活の活動紹介の写真を展示し、呈茶席を設けてお迎えしました。

席におかけになったお客様の正面では、立礼(りゅうれい)という扇形の机を前に、部員が椅子に座りながら抹茶をたてるというお点前を披露している姿をご覧いただけるようにし、照明の当たり方も調整していただき、お茶室にいたような落ち着いた雰囲気なかで薄茶と和菓子を味わっていただけるよう工夫しました。また、AIDS文化フォーラムで毎年大人気のキャラクター、ジミー・ハットリくんにもご協力いただき、部員とともに勧誘活動や声掛けをしながら会場内を回り、このフォーラムや企画の振興に尽力しました。

2日間で166名の方々にお立ち寄りいただき、「つかの間の休息をもらえました」「とてもよく点てられていておいしかったです」などお声がけいただきました。また、他のブースにいらっしゃる方へもお茶をお届けして楽しんでいただき、私共も他の展示や催し物に参加して、学びを深めることができました。

暑さ厳しい夏の2日間ではありましたが、日頃あまりお抹茶を味わったりお点前を見る機会の少ない方にも気軽に楽しんでいただけるコーナーとして、ほんのひととき安らぎの時間を提供できていたら嬉しいです。

本校の茶道部は今年で4年目の参加であり、今年の3月には「かながわレッドリボン賞」を頂戴いたしました。毎年、部活として発表の機会を与えていただきながら、HIV/AIDSについて見識を深め、活動する貴重な時間となっており、現役部員だけでなく社会人の卒業生も参加し、良い刺激となっております。

部員・顧問一同深く御礼申し上げます。

連絡先: 私立横浜雙葉中学高等学校 〒231-8653 横浜市中区山手町88番地

TEL:045-641-1004



パネル展「広がるAIDS文化フォーラム」

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜 AIDS文化フォーラム in 京都 AIDS文化フォーラム in 佐賀
AIDS文化フォーラム in 陸前高田 AIDS文化フォーラム in 名古屋

内容：1994年に横浜で生まれたAIDS文化フォーラムが京都、陸前高田、佐賀へと広がりました。そして、2017年からは新たに名古屋が加わりました！

パネル展では主に各地の実施報告や次回開催のアピールを行いました。各地から届いた資料や啓発物品も好評でした。



ワークショップコーナー「レッドリボンしてる？」

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会
協力：横浜AIDS市民活動センター

内容：今年は「第25回AIDS文化フォーラム」の壁装飾と、「レッドリボンしてる？」と題し、ワークショップを行いました。マグネットを再利用し、自分だけのリボン作りに挑戦してもらいました。親子で参加されたボランティアの方の助けを借りながら新しいつながりが作れました。

ピンク・オレンジ・パープルリボンも紹介しリボン運動(リボンを身につけたり、表示したりすることで、ある問題に関心、理解、支援を表す活動)も紹介しました。多くの方にエイズとレッドリボンの関係を知ってもらえました。



交流プログラム

ネットワーキングTEAパーティー

内容：参加者、発表者、展示発表者など様々な人が集い、自己紹介や活動紹介などをして交流しました。知らない人同士でしたが、和気あいあいと談笑したり、ゲームで景品を競ったりして、短い時間ですが楽しいひとときを過ごしました。次回のフォーラムでは自分の活動で得たものを発表しようかな？と思って下さった方もいらしたようです。次につながって、文字通りネットワークが広がるきっかけになったかもしれません。



ネットワーキングパーティー

内容: 恒例の迎珍で全国から集まった仲間が旧来の、そして新たなつながり・絆を確認しあいました。入場者・参加団体・各地域の運営委員との交流も魅力のひとつです。



Rock the Middle

2018年6月30日下北沢で開催

2017年からAIDS文化フォーラムin横浜をご支援いただいているRock the Middleが今年も開催されました。この日のドリンク代の一部がAIDS文化フォーラムin横浜への寄付となるライブのシステムで、127杯のご支援をいただきました。また、今年はタイアップイベントとして、運営委員の岩室紳也、大塚英彦が参加。前半、岩室からAIDS文化フォーラムの魅力、AIDSの基礎知識をお話しし、大塚よりAIDS文化フォーラムのPRを行いました。出来立てほやほやのパンフレットも配布しました。



(以下Rock the Middle Facebookより抜粋)

Rock the Middle vol.6 7バンド32名の演者と98名のお客様をお迎えし大盛況のうちに終了しました。ラストセッションは、すべての出演バンドから1名ずつ演者がステージに上がり、青春の一曲をパフォーマンス。このパワーなら武道館も見えてきた！そんな1日でした。

127杯ものチャリティドリンクへのご協力をいただき、8月3日から開催される AIDS文化フォーラムin横浜さんの運営資金の一部として寄付させていただきます。ご協力ありがとうございました！！

次回 Rock the Middle vol.7は、2019年3月3日（会場：渋谷）開催予定です！皆様のご出演、ご来場をお待ちしています！

連絡先: Rock the Middle

URL: <https://www.facebook.com/RockTheMiddle/>



イベントボランティア

今年度は小学生から大人まで、約70名の方がイベントボランティアとして、フォーラムの会場運営に協力をして下さいました。例年、当日の活動内容などを伝えている事前説明会を前週の金曜日と土曜日に実施していますが、今年は土曜日の説明会が台風で中止となりました。説明会の中止は25年の歴史の中で、初めてのことでした。

イベントボランティアの感想：

- 初めて会う人たちと仕事をしたので、とても緊張しましたが、やりがいのある活動でした。楽しかったです。(10代 学生 学校の紹介ではじめて参加)
- 会場整理等のボランティアは経験したことがなかったので、新しい発見ばかりで楽しかったです。また、ボランティアに参加する人たちの雰囲気がとても良かったので、活動しやすかったです。(10代 高校生 学校でフォーラムのチラシを見つけて参加)
- 今回初めてボランティアとして参加させていただきました。一つひとつの発表プログラムが、それぞれ大切なものを持っている気がして、心にくるものがありました。このフォーラムをたくさんの人に知ってもらえたら良いと思いました。(10代 学生 部活動の先生の紹介で参加)



ボランティアオリエンテーション

- ボランティア活動をしなが、いろいろなお話が聞けてよかったです。空き時間も展示コーナーのブースを回り、知識を深めることができました。(20代 学生 学校の紹介で参加)
- 高校生や主婦の方など、幅広い年齢層の方と役割を分担でき、とても楽しかったです。(30代 公務員 インターネットでの活動を知り参加)



閉会式でのボランティア挨拶

新聞記事

3日の「ネット時代のリアルコミュニケーションを語る」と題したプログラムでは、同性愛を公表して活動する男性人気ユーチューバー、かずえちゃん(35)や、HIV陽性者の北山翔子さん(52)らが登壇した。

「ネットでのコミュニケーションを取れるようになっても、根本的な生きづらさの部分は変わらない」などの課題が挙げられた一方、かずえちゃんは「同性愛者の

直接的にエイズやHIVをテーマにしたプログラムだけでなく、薬物依存や心のケアなど、感染症を取り巻くあらゆる話題を扱っているのが特徴となっている。

「西」 ウィルス(HIV)に関わる人や団体が集まる「AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA」が3日、横浜市西区のかながわ県民センターで始まった。講演や映画上映など47のプログラムが5日まで行われるほか、13団体が展示で啓発活動に取り組み。参加無料。

エイズに理解を

アオサまで 講演や映画で啓発

場合、それを隠して生活している人が多く、(スマホの)ゲイ向けアプリを利用

登壇したユーチューバーのかずえちゃん(左)ら かながわ県民センター



しなければ、リアルの世界で同じ境遇の友だちをつくらたりボーイフレンドをつくらたりするのが難しい。ゲイの中では、ネットで出会うのはある意味で文化」と活用法も紹介した。

その上で、登壇者たちは「ユーチューブもSNSも一つの道具にすぎない。道具を介して、よりリアルなつながりをつくっていかれたら」と締めくくった。4、5の両日も午前10時〜午後5時半。

（草山 歩）

神奈川新聞 平成30年8月4日



全体会・閉会式

次のステップ、 AIDS文化フォーラム

内容: 昨年の閉会式で「またここで会いたい」と、みんなに語り掛けてくれた洪久夫さんでしたが、2018年2月に亡くなりました。会場の皆様と洪さんを偲んで、友を失う悲しみをわかちあい、しかし洪さんの生きざまに倣って明るく旅立ちを見送ることから閉会式が始まりました。

今年のテーマは「リアルとつながる」でしたが、どのようなリアルとつながることができたか振り返りながら、登壇した人、参加した人、ボランティアをした人、いろいろな人の感想を共有し、最後には会場にいる人全員で隣の人と手をつなぎ、大きなレッドリボンをつくって、再会を約束して終わりました。



来場者感想:

- みんなで手をつないで「つながり」を感じる素適な閉会式でした。(東京都 30代 会社員)
- 昨年はフォーラムの自由な雰囲気(自分が同性愛者やHIV陽性者であることを公表したりすること)に少し驚きましたが、今年はAIDSに少し理解をもった上で参加したところ、昨年とはまた違った楽しみ方をすることができました。(東京都 20代 学生 ボランティア)



リボンでつながる



最後まで
書籍と
切手販売

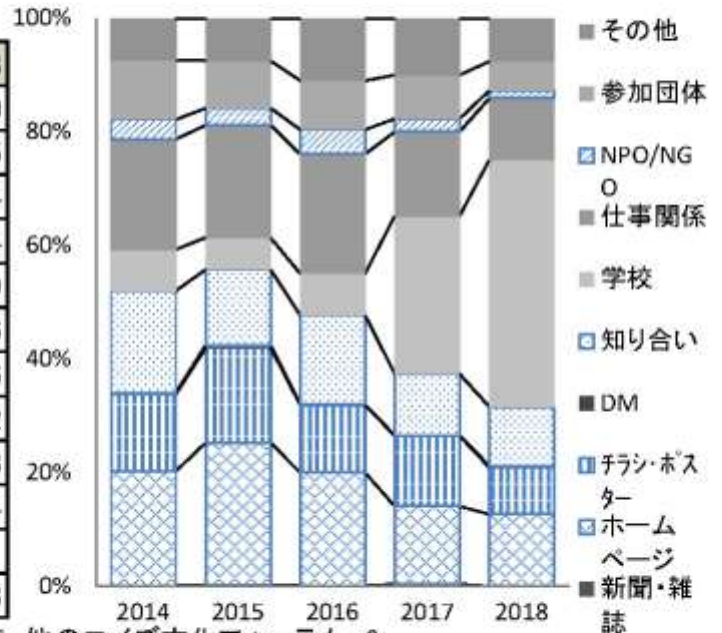


フォーラム全体集計表

◆全体集計推移 (2014~2018)

1. 何で知ったか

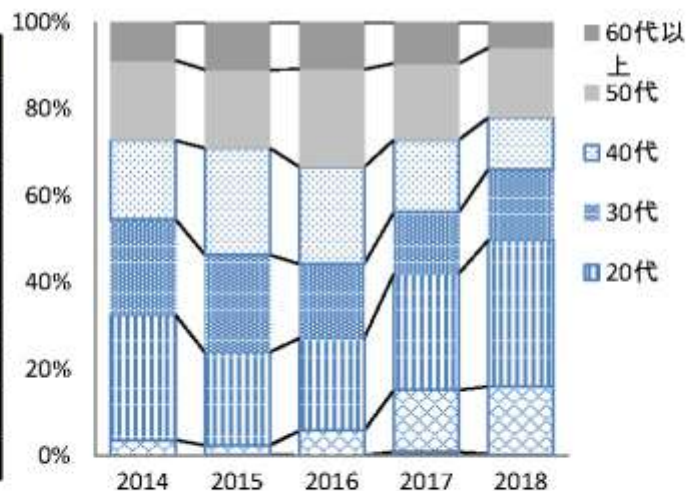
	2014	2015	2016	2017	2018
新聞・雑誌	1	3	1	4	0
ホームページ	228	289	198	153	205
チラシ・ポスター	153	194	119	139	134
DM	3	5	1	1	4
知り合い	203	154	157	121	169
学校	82	65	73	311	706
仕事関係	220	229	210	166	176
NPO/NGO	39	35	43	26	22
参加団体	118	96	86	86	83
その他	84	87	110	112	124
無記入					
計	1131	1157	998	1119	1623



※その他: SNS 26、関係者・登壇者の講演等 25、他のエイズ文化フォーラム 2

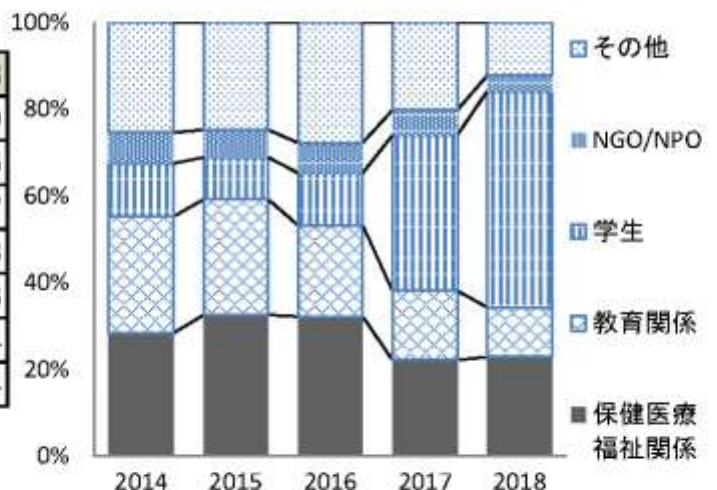
2. 年齢

	2014	2015	2016	2017	2018
10歳未満		2	1	9	5
10代	32	20	47	140	227
20代	254	197	177	264	491
30代	193	206	142	139	237
40代	159	226	186	164	173
50代	162	166	187	173	233
60代以上	77	100	90	93	85
無記入	14	10	6	17	8
計	891	927	836	999	1459



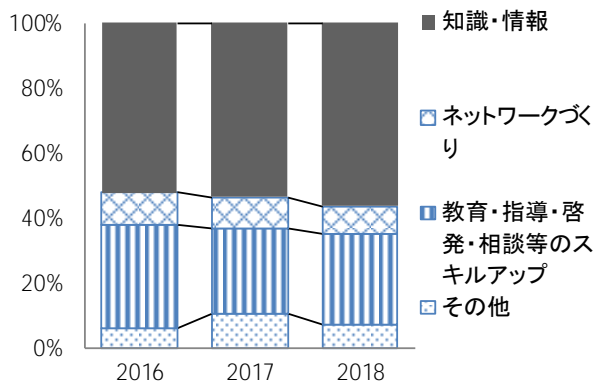
3. 職業等

	2014	2015	2016	2017	2018
保健医療福祉関係	246	296	263	215	329
教育関係	233	242	172	155	165
学生	106	88	99	349	717
NGO/NPO	62	58	57	56	53
その他	220	225	227	196	176
無記入	24	18	18	28	24
計	891	927	836	999	1464



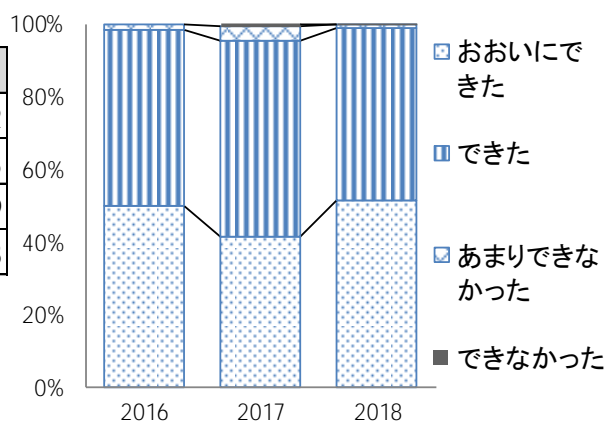
5. 来場目的

	2016	2017	2018
知識・情報	603	672	1063
ネットワークづくり	114	119	166
教育・指導・啓発・相談等のスキルアップ	372	330	518
その他	69	135	140



7 来場目的は達成したか

	2016	2017	2018
おおいにできた	323	302	512
できた	315	395	473
あまりできなかった	12	28	9
できなかった		6	3



◆2018年参加者の居住地（都道府県別）

地域	都 道 府 県								小計
	北海道	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島		
北海道・東北	11		10				4		25
関東	4	14	41	24	31	225	947		1286
中部1	5				16				21
中部2	1		5	4					10
近畿	4		8	6	2	4			24
中国									0
四国			1						1
九州・沖縄		3							3
海外									
合計	25	17	65	34	49	229	951	0	1370

AIDS文化フォーラム in 横浜 25回の歩みー開催概要と経緯ー

AIDS文化フォーラム in 横浜は、「HIVの感染経路を問わず、HIV/AIDSのみならず、社会を取り巻く状況を、多様に、文化の視点で考えていく」を特徴に25回歩み続けています。

組織委員会: HIV/AIDSに取り組む団体で構成し、フォーラムの社会的責任を負う

運営委員会: HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画

事務局: 横浜YMCA ボランティア: 会場運営に市民ボランティアの公募ー小学生から70歳代までの幅広い参加ー

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題/社会	来場者傾向
1994	1	市民と海外NGOによるAIDS会議	58	40	国際交流協会 神奈川県	4,305	9日	市民のエイズ会議 国際AIDS会議開催	地元市民中心
1995	2	ともに生きる	31	26		2,200		母親が語る薬害エイズ 薬害報道の増加	
1996	3	ともに生きるから連帯へ	34	28		1,600		性風俗とAIDS 薬害/薬害和解	
1997	4	未来へのつどい	72	56	かながわ県民センター	4,607	3日間	映画・秋桜 カクテル療法	全国から参加
1998	5	エンパワーメント～自立と協働に向けて	76	50		5,694		TV・神様もう少しだけ 障害者認定	
1999	6	いまを生きる	70	47		3,240		複数作家の写真展 ビル解禁・感染症予防法	
2000	7	いま一人ひとりができること	64	49		3,801		女性プログラム 女性用コンドーム・薬物乱用	医療・教育の 専門職増加
2001	8	いま一人ひとりができること	72	52		3,946		バリアについて考える ハンセン病に学ぶ	
2002	9	つながるつながる	81	56		4,808		国際NGO・国際神戸会議 SARS	国際NGO等 幅広く拡大
2003	10	AIDSこれまでの10年、 これからの10年	74	55		4,624		10年の振り返り 国際エイズ会議の延期	
2004	11	いのち ～市民が続けるAIDSへの取り組み	83	66		6,031		若者の参加 国際エイズ・バンコク会議	
2005	12	つながる空間	74	60		5,509		アジア太平洋地区エイズ・ 神戸会議	文化的 側面からの アプローチ 増加
2006	13	つながる空間 ～Living Together～	72	56		3,880		第20回日本エイズ学会 (池上千寿子会長)	
2007	14	つながる	71	56		3,689		かながわレインボーセンターSHIPが横浜西口OPEN	
2008	15	つながる ～いま、私にできること～	75	60		4,170		アフリカ会議横浜で開催	新型インフルエンザ 政権交代
2009	16	他人ごと?!	55	54		3,547		猛暑 円80円台	
2010	17	他人ごと??	52	52		3,296		東日本大震災 福島原発事故	被災地でも つながりが
2011	18	エイズの何を知っていますか? ～変わる常識～	64	44		3,255		横浜で 第26回日本エイズ学会	専門職の 増加
2012	19	AIDS??文化?? ～仲間 新発見!～	69	53		3,184		20年の積み重ねが京都、 そして陸前高田につながる	参加者増 で賑わう
2013	20	これまでの20年 これからの20年	70	56		4,278		21年目の新たな船出 佐賀に広がる	心機一転
2014	21	未来につなぐ新たな船出	69	56		4,165		LGBTの権利拡大 渋谷区条例、文科省通知	交流拡大
2015	22	今こそ、ともに生きる	67	54		3,701		相模原津久井やまゆり事件 薬物への関心	10代増加
2016	23	つながる ひろがる わかちあう	66	55	3,542	第31回日本エイズ学会(生島会長) AIDS文化フォーラム in 名古屋	入場者増 加		
2017	24	リアルとであう	65	49	6,394	記念切手作成 SNSでの新たな広がり	25周年		
2018	25	#リアルとつながる	62	47	5,355				

市民による市民に開かれた手弁当フォーラム!

高額な参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始めました。



■第1回(1994年) : 社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。

■第2回(1995年)~第3回(1996年) : 「第1回での成果を一過性のものに終わらせることなく、継続して欲しい」というAIDSに関わるNGO等からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。

新たな工夫と挑戦へ! ~量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかながわ県民センターへ変更したに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

■第4回(1997年) : 「PWA (People with AIDS) のネットワーク」をテーマとし、PWA5名がプレゼンターとなるなど、感染者の方々の積極的な協力がありました。

■第5回(1998年) : 治療薬が増え、HIV感染は慢性病になったと言われ始めました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。

■第6回(1999年) : 1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

専門職来場者の増加~継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。

10年の振り返りと新たな取り組み~若者へのアプローチ強化

先進国で唯一エイズ患者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。



■第10回(2003年) : 脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第11回(2004年) : 飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーを行いました。愛さんの明るいキャラクターと会場参加型の企画に大いに盛り上がりしました。

■第12回(2005年) : 飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実体験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。

■第7回(2000年) : 恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんやタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。



■第8回(2001年) : パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIVに感染している桜屋伝衛門さんのトークを通して「障害」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

■第9回(2002年) : 自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの人が勇気付けられました。

つながる空間、

本音で語る対話の場へ

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。

■第13回(2006年) : 「エイズと宗教を語る」では、仏教、キリスト教、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希子さんがPeer講座を担当するなど若者の活躍がみられました。

■第14回(2007年) : 3名のHIV(+)の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

つながることで「他人ごと意識」の解消へ

■第15回(2008年) : 教育関係のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズとして紹介し、最終日に「徹底討論~エイズ教育に求められるものは何か」で本音で意見を交わしました。

■第16回(2009年) : 正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人ごと(ひとごと)と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、医療関係者が、教育関係者が、宗教関係者が、そして参加者の一人ひとりがつながる中で、自分自身の課題と考える第一歩を踏み出しました。

■第17回(2010年) : パトリックさん、北山翔子さん、洪久夫さん、桜屋伝衛門さんをはじめ多くの当事者に励まされ、妊娠時にHIV感染がわかった石田心さんがトークセッションを持ってくださいました。閉会式は5年前のフォーラムでピアエデュケーションに目覚め、今や全国を飛び回っている遠見才希子さんが、医学生最後の年に司会を務めました。他人意識を克服するため、多くの人が「つながる」ことで、一歩ずつ「他人ごと」が「自分ごと」に代わっていくことを実感した年でした。

つながりが、絆がAIDS文化フォーラム in 横浜・京都・陸前高田・佐賀に

■第18回(2011年) : 3月11日に東日本大震災があった中、オープニングでは陸前高田市の方々から被災地の状況を報告。10月には「AIDS文化フォーラム in 京都」開催。これまでのフォーラムを通してできたつながりが新たな絆につながっていくことを実感したフォーラムとなりました。

■第19回(2012年) : 昨年のAIDS文化フォーラム in 京都への広がり。11月に開催される日本エイズ学会(横浜)とのつながり。改めてHIV/AIDSを文化の視点で考えさせられました。

■第20回(2013年) : 陸前高田でもAIDS文化フォーラムが開催されることに。一区切りを迎える一方で、新たな時代への誓いをこころに刻み、この先も続けることをみんなで確認し合いました。

■第21回(2014年) : 21年目に新たな船出となったAIDS文化フォーラムが佐賀に広がることに。継続する力は多くの人や地域からのサポートがあってこそ実感!

つながるひろがるわかちあう時代に


■第22回(2015年) : 事務局が1階に移り、展示・交流スペースでの交流が活発に。予防啓発に加え、一人ひとりが生きていくために、いま、何が求められているかを、いろんな人たちと一緒に考える時代になりました。

■第23回(2016年) : つながりがひろがり、お互いの思い、課題をわかち合う中、熊谷晋一郎先生の「自立は依存先を増やすこと」に学び、病気や障がいを抱えている人だけではなく、一人ひとりの生き方、支え合い方を考えるフォーラムになりました。

■第24回(2017年) : ヴァーチャルなことが溢れる世の中になったからこそ、「リアルとどう」大切さを再確認しました。その思いが結集すべく、SNS等も積極的に取り入れた結果、入場者数が一気に増えました。AIDS文化フォーラム in 名古屋初開催。

■第25回(2018年) : 気が付けば25年、四半世紀。当初からHIV/AIDSをとりまく様々な文化とつながり続け、「つながりから考える薬物依存症」という書籍も誕生するなど、HIV/AIDSに学び続けている人たちが集うフォーラムの成長を実感した年でした。

協賛・寄付 ご協力に感謝申し上げます

<p>ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 〒160-0003 東京都新宿区本塩町7 日本YMCA同盟会館 TEL : 03-5367-6652 URL : http://ys-east.jimdo.com/</p>	<p>ヴィーブヘルスケア株式会社 〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1赤坂インターシティAIR TEL : 03-4231-5150 FAX : 03-4231-5983 URL : http://glaxosmithkline.co.jp/viiv/index.html</p>
<p>神奈川県化粧品工業協会 〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター402 TEL : 045-755-0323 FAX : 045-755-2342</p>	<p>神奈川県製薬協会 〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター402 TEL : 045-755-0323 FAX : 045-755-2342</p>
<p>ジェクス株式会社 〒540-0012 大阪府中央区谷町2-3-12 TEL : 06-6942-9002 FAX : 06-6941-5234 URL : http://www.jex-inc.co.jp</p>	<p>鳥居薬品株式会社 〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 TEL : 03-3231-6878 FAX : 03-5203-7335 URL : https://www.torii.co.jp/</p>
<p>ヤンセンファーマ株式会社 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2 TEL : 03-4411-5677 URL : https://www.janssen.com/japan/</p>	<p>株式会社伊藤園 〒221-0862 横浜市神奈川区三枚町281-1 TEL : 045-382-2833 FAX : 045-382-2835</p>
<p>東京キリンビバレッジサービス株式会社 〒232-0064 横浜市南区別所1-9-24 TEL : 045-741-0538 FAX : 045-713-4265</p>	
<p>株式会社ジャパンビバレッジセントラル 〒221-0864 横浜市神奈川区菅田町2774-1 TEL : 045-473-9540 FAX : 045-473-9448 URL : http://www.jbinc.co.jp</p>	

協賛企業展示

ジェクス株式会社

大阪でコンドーム・潤滑ゼリー・ローション・育児マタニティ用品を製造販売している総合医療機器メーカーです。

内容:コンドームの展示ということで、普段じっくり見たり話することが出来ない内容を、ブースにお越しただけの方にお伝えできたかと思えます。毎年展示をさせていただいていますが、コンドームに関する理解度が上がってきているためか、年々足を止めてくれる方が増えているように感じます。

今回は特に教育される側の方もあまり知らない、コンドームの素材である「天然ラテックスゴムとポリウレタンの違い」を水を入れた2種類のコンドームを吊り下げて説明させていただきました。市販の0.01mmや0.02mmの薄いものは全て天然ゴムではなくポリウレタンが素材ですが、実際に触っていただいていたのでメリットやデメリットを感じていただけたと思います。

コンドームの素材や塗布されているゼリー(潤滑剤)による特長を理解していただくことで、悩みの解決や自分にあった選び方が出来ると思いますので、今後の参考にしていただければと思います。

皆さんとの貴重な繋がりを活かして、よりよい啓発活動ができればと考えています。

連絡先:ジェクス(株) 企画部 長塩 岳士
〒540-0012 大阪府中央区谷町2-3-12
TEL:06-6942-9002 FAX:06-6941-5234
E-mail: takeshi-nagashio@jex-inc.co.jp
URL: <http://www.jex-inc.co.jp/>



2018 AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

■主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラム in 横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

- ◇公益財団法人横浜YMCA 田口 努 (組織委員長) ◇社会福祉法人横浜いのちの電話 松橋 秀之
- ◇カトリック横浜教区 鈴木 真 ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部 佐藤節子
- ◇公益財団法人横浜YWCA 今地裕美子

■共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課

大久保久美子、吉田和浩、相原浩行、梶山祐輔、藤上有子

■助成金 公益財団法人エイズ予防財団

平成30年度エイズ予防財団助成金「エイズ予防に関する啓発普及事業」として、AIDS文化フォーラムの広がるネットワークに助成していただきました。

■後援

- ◇横浜市健康福祉局 ◇川崎市 ◇相模原市 ◇横須賀市 ◇藤沢市 ◇横浜商工会議所
- ◇神奈川県教育委員会 ◇公益財団法人エイズ予防財団

■企画運営 AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、大学生、共催・後援(行政)の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通し活動しています。

伊東和子、猪谷亜子、岩室紳也、大江 浩、大塚英彦、糟谷 潤、金井多恵、佐藤 睦、白井美穂、千代木ひかる、畠山雅行、彦根倫子、三宅晶子、宮崎豊久、母袋秀典、矢部尚美、山田雅子、吉永陽子、渡辺誠二

■イベントボランティア(会場ボランティア) (小学生~大人)

野村俊一 箕輪 尚子 杉山詩織 大瀧美優 金子朋代 内藤愛 服部好 青木怜奈 古市彩芽 古川あさひ
水沼華子 相川留理子 鈴木希実 熊谷健太郎 岸美里 小嶋亮輝 新井恵奈 村田匠吾 山下和祥 前田陸生
大久保歩夏 高橋 里彩 中山知里子 金子園子 前原ほのか 林田凌 日南舞妃 藤江桃 柳田結実子 寺元紗奈
谷口葵 松本雪乃 桶田花梨 柳元樹乃 入川祥子 神愛佳 藤島あみ 秋元志織 甲斐向日葵 宍戸愛美
杉山奏音 富松さくら 簗原奈美 ウィリアムカミーラ 中島彩 福田こまち 渡邊菜々子 内田佳歩 中澤三佳子
他合計70人 ありがとうございます!

■事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。

24年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:横浜YMCA 国際・地域事業 高村文子、永田圭緒梨

「AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会規約

1. 名称

この会は「AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会」と称する。
(以下、「組織委員会」と略す)

2. 趣旨

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。

3. 目的

- 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
- 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
- 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
- 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
- 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
- 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
- 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
- 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に捉える。
- 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける(エンパワーメント)集いとする。

4. 構成

組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表者で組織する。

5. 委員長

委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。

6. 組織委員会の開催

組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。

7. 組織委員会の役割

「AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。

8. 運営委員会の設置

組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員は、HIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。

9. 事務局の設置と役割

組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。

常設の事務所を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。

事務局の役割は次の通りとする。

- 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
- 2) 予算を管理する。
- 3) 年度を越えての継続的な開催を補佐する。

10. 財政

フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催(運営委員会へ委嘱)の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。

11. 年度及び任期

組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。

組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。

12. その他

この規約に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の議を経て定めるものとする。

(付則) この規約は、2008年4月7日から施行する。

参加団体等名称・索引

◆名称順

アジアの女性と子どもネットワークP15,P28
 安藤晴敏P9,P14
 岩室紳也P6,8,9,12,14,18,22,26,35
 井戸田一朗P14
 遠見才希子P20
 水主川純P25
 かずえちゃんP6,9,26
 カトリック中央協議会 HIV/AIDSデスクP28
 神奈川県健康医療局健康危機管理課P13,17,29
 神奈川県ユニセフ協会P29
 上村茂仁P21,26
 上村悠P13
 川田龍平P6
 北山翔子P6,9,10,18
 木村聡太P13
 現役AV男優有志の会P10
 厚生科研エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・
 予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法
 の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班
P21
 斉藤章佳P8
 椎名雄一P16,24
 ジェクス株式会社P42
 思春期保健指導者研究会P10
 下村健一P22
 私立横浜雙葉中学高等学校 茶道部P33
 杉野祐子P13
 鈴木佳奈P15
 スターカル ヌカボグP18
 平良愛香P12
 高久陽介P6
 特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター
P33
 特定非営利活動法人パープルハンズP19
 富岡順子P17
 友田安政P27
 長島浩二P13
 ナルコティクスアノニマスP23,30
 仁藤夢乃P15
 認定NPO法人AIDSネットワーク横浜P25,27

認定NPO法人エンパワメントかながわP23
 古川潤哉P18,24
 星野貴奏P22
 松本俊彦P8,P9
 マリ・クリスティーンP15
 水谷修P25
 三橋健P18
 三ツ矢雄二P14
 宮崎豊久P9,15,22
 薬害エイズを考える山の手の会P26
 山田雅子P27
 横浜AIDS市民活動センターP13,30,34
 横浜YMCAP17,31
 横浜YMCA ACTP20
 渡辺恒二P13

◆アルファベット団体名

AIDS文化フォーラム in 京都P34
 AIDS文化フォーラム in 佐賀P34
 AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
P11,14,18,22,25,27,34
 AIDS文化フォーラム in 陸前高田P34
 AIDS文化フォーラム in 名古屋(NAGOYA)P26,34
 ATAC&ABCD&SKHG in NARAP31
 HAATASP16
 JOINT HEARTP11
 NhermitclubP32
 NPO法人HIVと人権・情報センターP32
 Rock the MiddleP35
 SANE team かながわP19



2018（第25回）AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

発行日： 2018年11月20日
 発行者： AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
 編集： AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
 イラスト協力： もたいひでのり
 連絡先： AIDS文化フォーラム in 横浜事務局
 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内
 TEL：045-662-3721
 FAX：045-651-0169
 URL：https://abf-yokohama.org/
 E-mail：abf@yokohamaymca.org



第26回 AIDS 文化フォーラム in 横浜

期間 2019 8/2^金 → 4^日

参加自由
入場無料

会場 かながわ県民センター（横浜駅西口 徒歩5分）



あなたも 参加しませんか？

参加団体として!

HIV / AIDS に関する視点をもった内容であれば、どなたでもご参加いただけます。講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表の形式は自由で、例年多くの団体が教育・若者・国際・PWA/H・医療といった多様な切り口から発表を行っています。毎年4月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。

イベントボランティアとして!

イベントボランティアとして、フォーラムに参加しませんか？小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。

詳細はホームページをご覧ください！ <https://abf-yokohama.org/>

f Facebook <https://www.facebook.com/abfyokohama/>

